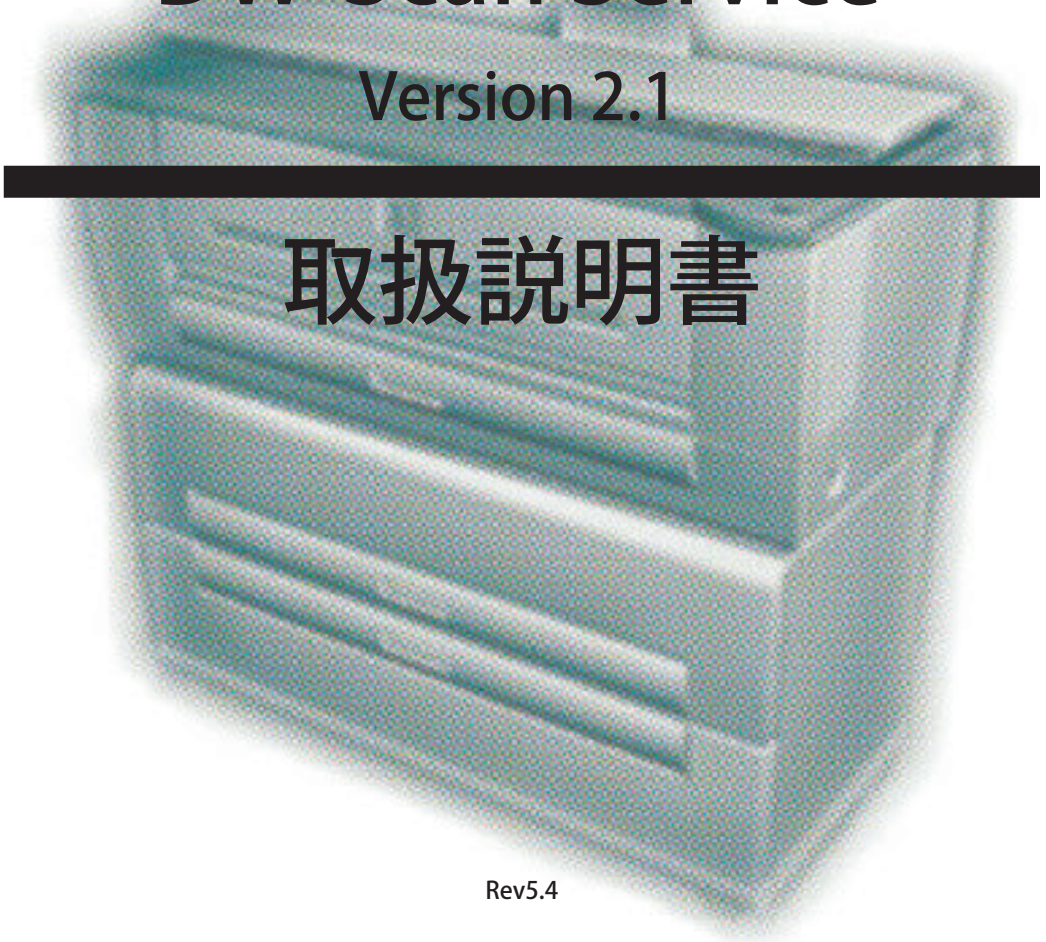
DW-Scan Service

Version 2.1

取扱説明書



Rev5.4

始めに

このたびは、DW-Scan Service をご使用 購入いただき、誠にありがとうございます。

● この「 取扱説明書」は、DW-Scan Service の操作方法について記載してあります。

● DW-Scan Service の性能を十分に発揮させ、効果的にご利用いただくために、この「 取扱説明書 」を最後までお読みください。

● お読みになった後は、大切に保管してください。

● 機械をご使用中、不明な点がありましたら、この「取扱説明書」をご利用ください。

本書の内容は、DocuWide2050/2051 の取り扱いと操作について、ご理解いただいていることを前提に記述されています。
DocuWide2050/2051 の取り扱いと操作で不明な点は、次の説明書を参照してください。

・「DocuWide2050/2051 取扱説明書」

コピーと併用して使用する時には、次の説明書を参照して下さい。
・「DocuWide2050/2051 マルチファンクション操作説明書」

本書の記載事項は、事前通知無しに変更される場合も有りますので、予め ご了承ください。

ご注意

① 本書の内容の一部または全部を無断で転載することはおやめください。
② 本書の内容に関しては将来予告無しに変更することがあります。
③ 本書の内容は万全を期して作成していますが、万一ご不明な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がございましたら弊社までご連絡ください。
④ お客様が機器を運用された結果につきましては、責任を負いかねることがございますのでご了承ください。

Windows Vista(TM)、Windows® XP、Windows® 2000、は
Microsoft® 社の登録商標です。

目次

第 1 章 概要 1
1.1 DW-Scan Service とは 2
1.1.1 主な機能 2
1.2 接続構成 3
1.2.1 必要な機器 3
1.2.2 必要な機器 (USB-SCSI 接続) 4
第 2 章 インストール 7
2.1 インストールの方法 8
2.1.1 インストール 8
2.1.2 プログラムを修正する 11
インストーラ警告が出た時の注意 13
2.1.3 コントロールパネルからアンインストールする 14
2.1.4 インストール CD からアンインストールする 16
2.1.5 アンインストールが出来ないときの対処方法 18
2.2 スキャナデバイス登録 20
2.2.1 ハードウェア検出ウィザード 20
第 3 章 操作方法 23
3.1 起動と終了 24
3.1.1 DW-Scan Service の起動 24
3.1.2 DW-Scan Service の終了 25
3.2 ウィンドウの説明 26
3.2.1 メインウィンドウ 26
3.2.2 詳細設定ダイアログ 30
3.3 自動判定（定形サイズ）で読み取る 35
3.3.1 手順 35
3.4 自動判定（シンクロ）で読み取る 37
3.4.1 手順 37
3.5 特定サイズ指定で読み取る 39
3.5.1 手順 39
3.6 設定書類の保存 41
3.6.1 手順 41

3.7 保存した画像ファイルを表示する 42
3.7.1 手順 42
3.8 保存した画像ファイルを編集する 43
3.8.1 ページの追加 43
3.8.2 ページの入れ替え 44
3.8.3 ページの削除 45
3.8.4 画像の回転 46
3.8.5 自動傾き補正 47
3.8.6 手動傾き補正 - 水平線を指定 48
3.8.7 手動傾き補正 - 角度を指定 49
3.8.8 ゴミ取り 50
3.8.9 ゴミ取りの性能 51
3.9 画像ファイルのファイル名 52
3.9.1 自動ファイル名 52
3.9.2 ファイル名を指定する 53
3.9.3 連番最大値を指定する 54
3.9.4 表計算のファイルからファイル名を指定する 55
3.9.5 設定ファイルを開くときにファイル名を指定する 56
3.9.6 .csv ファイルでファイル名を連番に指定する 56
3.9.7 複数ページ TIFF 形式で保存 57
3.9.8 複数ページ TIFF 形式のファイル名 57
3.9.9 ファイル名に使用できない文字 58
3.10 ヘルプメニュー 59
3.10.1 環境設定（自動読み取り中止） 59
3.10.2 環境設定（ログファイルの作成） 60
3.10.3 環境設定（TIFF ファイルフォーマット） 61
3.10.4 環境設定（外部ビューワ） 62
3.10.5 環境設定（濃淡表示初期設定） 63
3.10.6 環境設定（編集初期設定） 64
3.10.7 環境設定（プレビュー表示倍率） 65
3.10.8 スキャナ情報 66
3.10.9 バージョン情報 67
3.11 FTP プリント 68
3.11.1 FTP の設定 68
3.11.2 読み取りながら FTP プリントを実行する 69
3.11.3 保存した画像ファイルに FTP プリントを実行する 70
3.12 定形サイズ補正 71
3.12.1 定形サイズ補正が必要なとき 71
3.12.2 手順 71

3.12.3 定形サイズと画素数（出荷時の設定）..... 72
3.13 ファイル名編集ツール..... 73
3.13.1 ファイル名編集ツールを開く..... 73
第 4 章 エラーメッセージ..... 75
4.1 エラーメッセージ一覧..... 76
4.1.1 起動時･設定書類を開いたとき..... 76
4.1.2 読み取り..... 78
4.1.3 その他..... 81
4.2 ログファイル..... 82
4.2.1 ジョブログ..... 82
4.2.2 作業履歴ログ..... 82
4.2.3 エラーログ..... 82
4.2.4 FTP ログ..... 82
第 5 章 注意／制限事項..... 83
5.1 注意 / 制限事項..... 84
5.1.1 フォルダ・ファイル名の長さ..... 84
5.1.2 表示できない画像ファイル..... 84
5.1.3 ASPI マネージャ..... 85
5.1.4 自動傾き補正..... 85
5.1.5 画像の表示と編集..... 86
5.1.6 枠消し機能について..... 86
5.1.7 シンクロ／任意長モードでのスキャンについて..... 86
5.1.8 参照プリントについて..... 87
5.1.9 自動傾き補正・手動傾き補正の画質..... 87
5.1.10 プレビューにおける制限のまとめ..... 88
5.1.11 USB-SCSI 装置使用時の注意事項..... 89
5.1.12 連番最大値を超える読み取り..... 90
5.1.13 CSV ファイルからファイル名を指定する際の注意事項..... 90

第 1 章 概要

1.1　DW-Scan Service とは
1.2　接続構成

1.1 DW-Scan Service とは

DW-Scan Service は、DocuWide2050/2051 と接続して効率よく使用することを目的として開発されたソフトウェアで、パーソナル・コンピュータ上で動作します。

1.1.1 主な機能

■ 画像ファイリング機能

スキャナから読み取ったイメージデータを画像ファイルとして保存する機能です。画像ファイルのフォーマットは TIFF 形式の圧縮された白黒 2 値画像になるためサイズの大きい原稿でも効率よくファイリングすることが出来ます。また、一度に 1000 枚まで（最大 9999 枚まで設定可能）自動的にファイル名を付けて保存することができます。また、ファイリングする TIFF は複数ページにすることもできます。

■ 自動読み取り機能

A 系列のサイズ、縦・横を自動判定して読み取る機能です。スキャナに読み込ませた様々な定形サイズを自動判定してそれぞれのサイズでファイリングすることができます。

■ 読み取り設定機能

スキャナのコンソールパネルと同様の読み取り設定をパーソナル・コンピュータのモニター画面上から行う機能です。また、読み取り設定を設定書類として保存することもできます。

■画像処理機能

粒状のゴミを除去したり、自動で傾きを補正する事ができます。

■ ビュー表示機能

読み取り後のイメージデータをモニター画面上で確認する機能です。ビューの結果、保存するかどうか指示する事ができます。
ビューワ上で複数ページ TIFF のページ挿入・削除の編集・画像処理を行うことができます。

■ FTP プリント機能

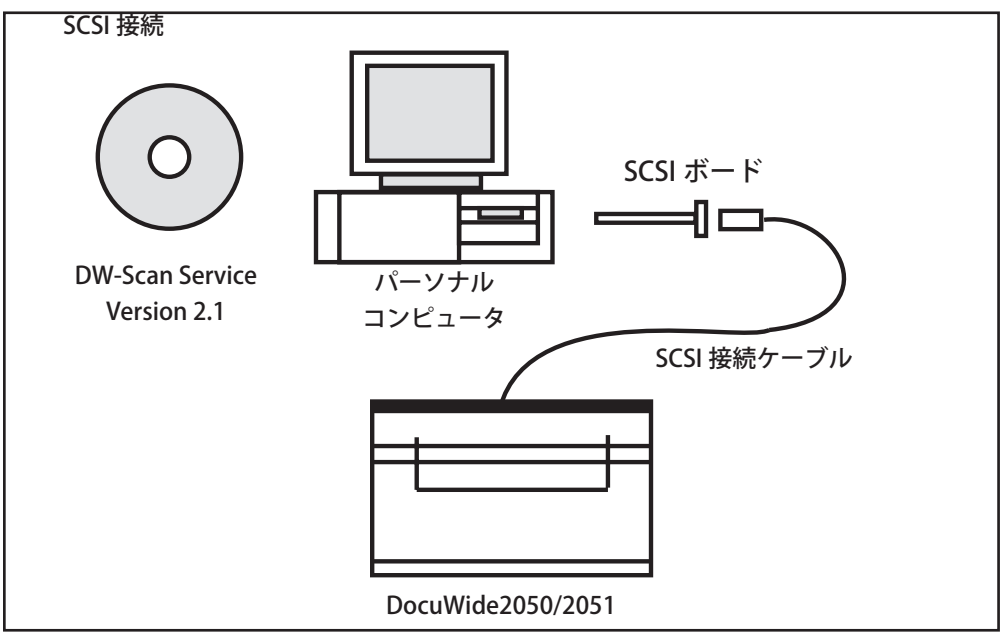
読み取り後のイメージデータを FTP 機能を持つプリンタやサーバーにバックグラウンドで転送することができます。
用紙サイズに応じて別々のプリンタやサーバーを指定したり、プリントする部数を指定することができます。

1.2 接続構成

DW-Scan Service を動作させるために必要な構成を以下に記述します。

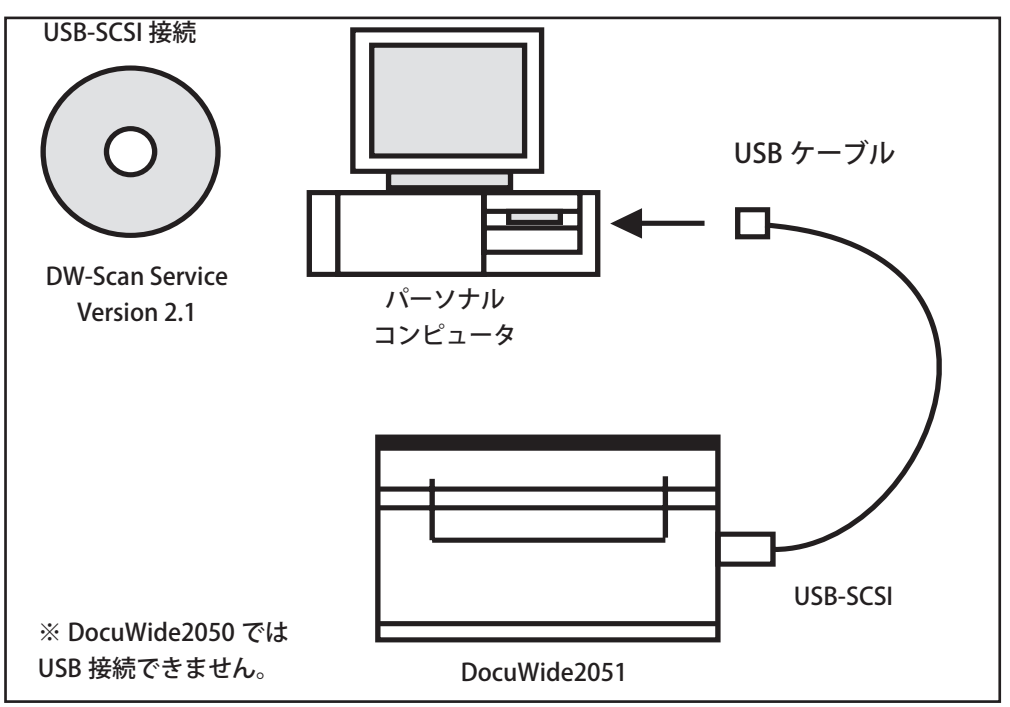
1.2.1 必要な機器

■ スキャナ	DocuWide2050/2051 SCSI キット
■ CPU	DOS/V 機（NEC の NX シリーズ除く） Pentium 300MHz 以上 ※ 1　page 5 を参照して下さい。
■ メモリ	128MB 以上
■ PCI のスロット	1 つ以上の空きがあること
■ ハードディスク	500MB 以上の空きがあること
■ ディスプレイ	VGA 以上（800x600 以上の解像度）
■ OS	※ 2　page 5 を参照して下さい。
■ SCSI ボード	※ 3　page 5 を参照して下さい。
■ ASPI マネージャ	ASPI32.SYS（Version4.71.2） WNASPI32.DLL（Version4.71.2）
■ DW-Scan Service	アプリケーションプログラム



1.2.2 必要な機器 (USB-SCSI 接続)

■ スキャナ	DocuWide2051 SCSI キット
■ CPU	DOS/V 機（NEC の NX シリーズ除く） Pentium 300MHz 以上 ※ 1　page 5 を参照して下さい。
■ メモリ	128MB 以上
■ ハードディスク	500MB 以上の空きがあること
■ ディスプレイ	VGA 以上（800x600 以上の解像度）
■ USB	USB2.0 インターフェース
■ OS	※ 2　page 5 を参照して下さい。
■ ASPI マネージャ	ASPI32.SYS（Version4.71.2） WNASPI32.DLL（Version4.71.2）
■ USB-SCSI	※ 3　page 5 を参照して下さい。
■ DW-Scan Service	アプリケーションプログラム



（※ 1） マイクロソフト社 Hardware CompatibilityList (HCL) に、登録されている、PC(64bitOS は不可) 以外での動作は保証出来ません。

（※ 2） 対応 OS の詳細は以下の様になります

OS	対応
Windows 2000	Professional 日本語版（SP4 以上推奨）
Windows XP	Home 日本語版 Professional 日本語版
Windows Vista	Ultimate Business 以下には対応していません。 Home Premiun Home Basic

マイクロソフト社の推奨システム要件を満たすシステムで運用してください。

（※ 3）ご使用になる OS により対応する SCSI カードが異なります。

OS	SCSI カード (メーカー)
Windows 2000	2940AU (アダプテックジャパン株式会社) 推奨※ 4 U2SCX (ラトックシステム株式会社) ※ 4 USB-SC2 (株式会社アイ・オー・データ機器) ※ 4
Windows XP	2940AU (アダプテックジャパン株式会社) ※ 4 29160N (アダプテックジャパン株式会社) ※ 4 2915LP (アダプテックジャパン株式会社) ※ 4 U2SCX (ラトックシステム株式会社) ※ 4 USB-SC2 (株式会社アイ・オー・データ機器) ※ 4
Windows Vista	2940AU (アダプテックジャパン株式会社) ※ 4 29160N (アダプテックジャパン株式会社) ※ 5 2915LP (アダプテックジャパン株式会社) ※ 5 U2SCX (ラトックシステム株式会社) ※ 6

※ 4　メーカー提供の最新ドライバをダウンロードしてご使用下さい。
U2SCX は Windows2000/XP 用のドライバをご使用ください。

※ 5　Windows Vista に同梱のドライバをご使用下さい。
メーカーより最新ドライバの提供があった場合は更新をお勧めします。

※ 6　Windows Vista 専用のドライバは有償でのご提供となります。
ドライバの入手は、「ラトックシステム株式会社」のソフトウェア有償ダウンロードサイトからのご購入もしくは、本ソフトウェアをご購入された担当営業にご相談ください。

Note:　USB-SC2 (株式会社アイ・オー・データ機器社製) はメーカーより、対応ドライバ提供が無いため Vista では非対応となります。

第2章 インストール

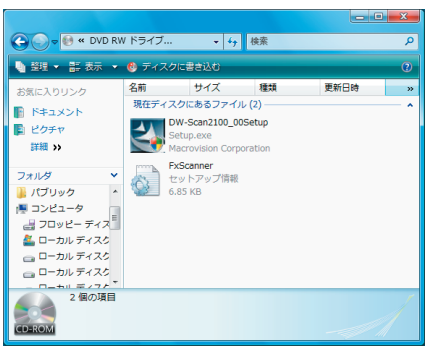
2.1　インストールの方法
2.2　スキャナデバイス登録

2.1 インストールの方法

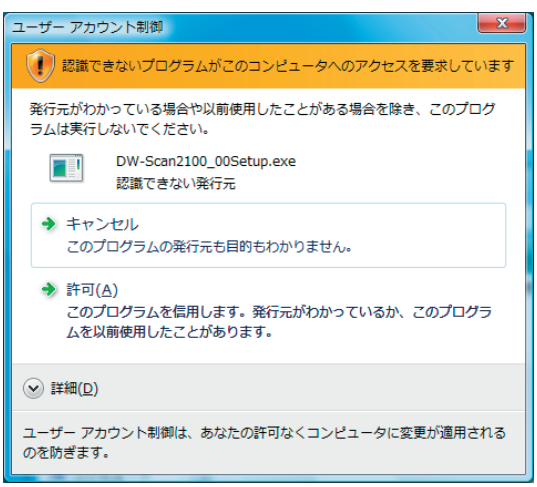
2.1.1 インストール

(1) インストールするパーソナルコンピュータに、システム管理者の権限でログインします。

(2) インストール CD を CD ドライブに挿入し、“CD-ROM” アイコンを開いてディスクの内容を表示させます。



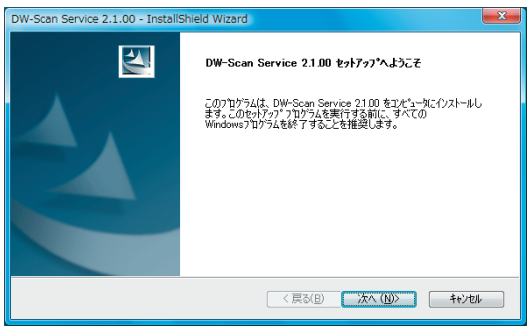
(3) DW-Scan2100_00Setup をダブルクリックしてプログラムを起動します。



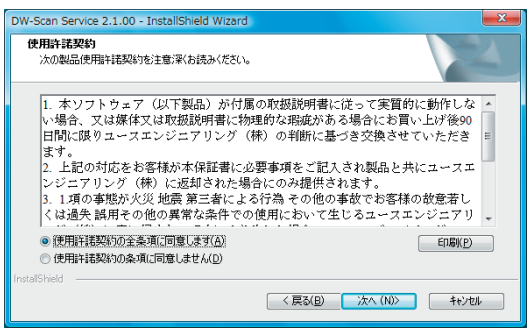
(4)「許可（A）」を選択してください。

※ この表示は Windows Vista のみ表示されます。

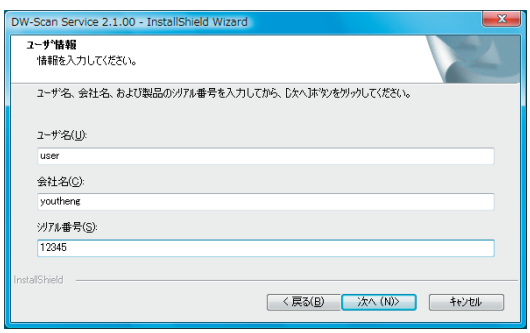
Windows 2000,Windows XP では表示されません。



(5) セットアップが始まります。

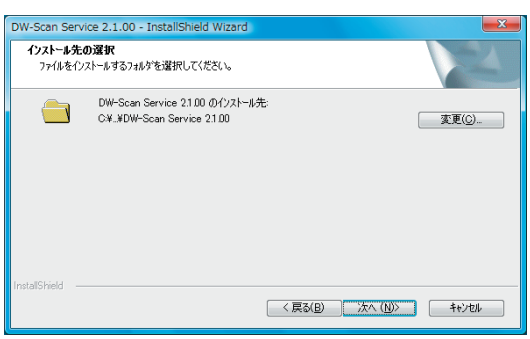


(6) 保証規定は表示されます。規定に同意されるなら、” はい” のボタンをクリックしてください。



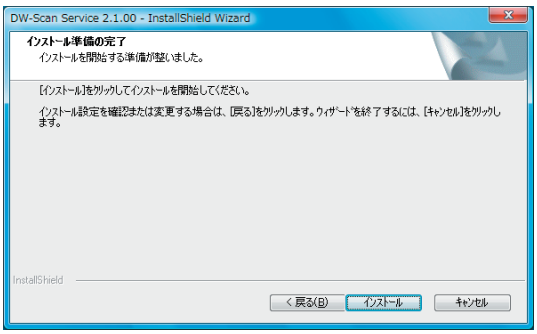
(7) 使用者の登録を行います。お名前　会社名　シリアル番号を入力します。入力できれば、" 次へ " のボタンをクリックします。

Note: シリアル番号は、インストール CD のケースに書かれています。

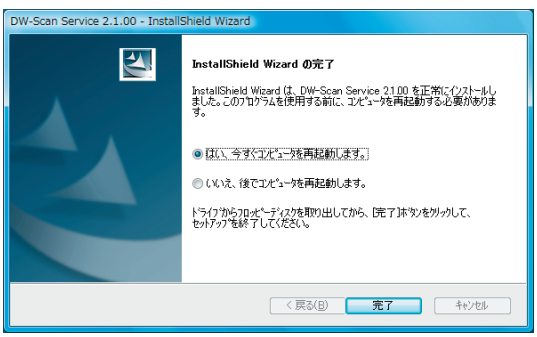


(8) インストールするディレクトリを指定します。" 次へ " のボタンをクリックします。

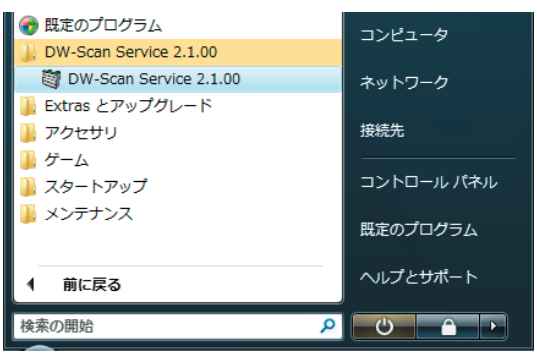
Note: 再インストールを簡便にするためにこのままのディレクトリ名を使用されることをお薦めします。



(9) インストール開始の確認を行います。”インストール”のボタンをクリックすると DW-Scan Service のプログラムが指定したディレクトリにコピーされます。



(10) “完了”をクリックするとインストールされたプログラムを有効にするために、コンピュータの再起動を行います。



(11) 再起動後、スタートメニューから DW-Scan Service を起動することが出来ます。

以上でインストールは終了しました。

Note: CD-R からインストールを行った際に、ファイルが見つからない またはファイルが壊れている旨のエラーメッセージが表示される時は、CD-R 上のインストーラを一旦ハードディスクにコピーしてから、再度インストールを実行して下さい。

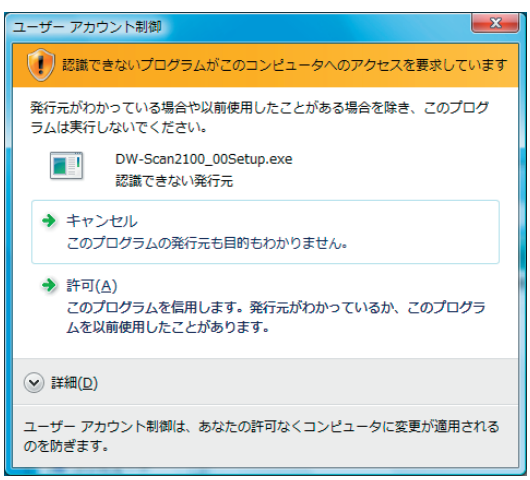
2.1.2 プログラムを修正する

間違えてアプリケーションのファイルを消してしまった場合など、再度インストールプログラムを起動することで、プログラムの修正を行うことができます。

(1) インストールするパーソナルコンピュータにシステム管理者の権限でログインします

(2) インストール CD を CD ドライブに挿入し、”CD-ROM” アイコンを開いてディスクの内容を表示させます。

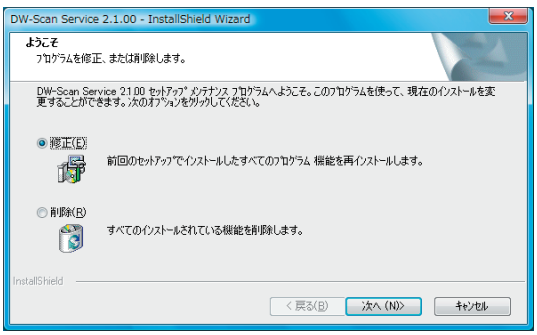
(3) DW-Scan 2100_00Setup をダブルクリックしてインストールプログラムを起動します。



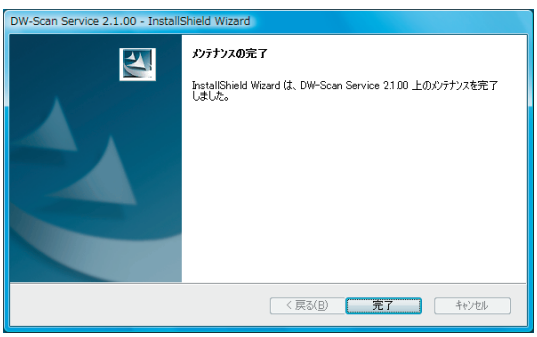
(4)「許可（A）」を選択してください。

※　この表示は Windows Vista のみ表示されます。

Windows 2000,Windows XP では表示されません。



(5)「修正（E）」を選択し”次へ”のボタンをクリックします。



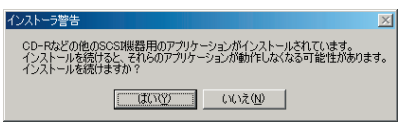
(6) メンテナンス完了のダイアログが表示されたら”完了”をクリックしてインストールプログラムを終了してください。

インストーラ警告が出た時の注意

DW-Scan Service は DocuWide2050/2051 の制御に ASPI マネージャを使用しており、インストールの時に最新の ASPI マネージャに置き換えようとします。

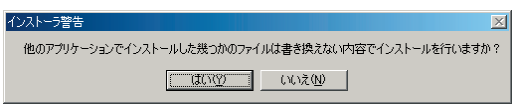
お使いになっているコンピュータに ASPI マネージャを使用するアプリケーションが既にインストールされている場合、置き換わった ASPI マネージャのためにアプリケーションが動作できなくなるような問題が発生する場合があります。

すでに ASPI マネージャがインストールされているときは、警告メッセージを表示しますので以下を参照されて、DW-Scan Service のインストールを行って下さい。



" はい "　を選んだときは、ASPI マネージャを、最新に置き換えます。

Note:　他の SCSI を利用するアプリケーションの動作確認をお勧めします。



" いいえ "　を選んだときは、左下図のメッセージを表示します。

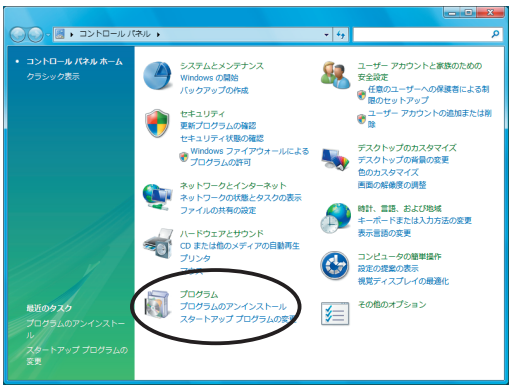
" はい "　を選んだときは、ASPI マネージャを、置き換えないでインストールを行います。

Note:　このとき、インストール後に使用される ASPI マネージャは他のアプリケーションでインストールしたものになります。
DW-Scan Service の動作保証はできませんのでご了承ください。

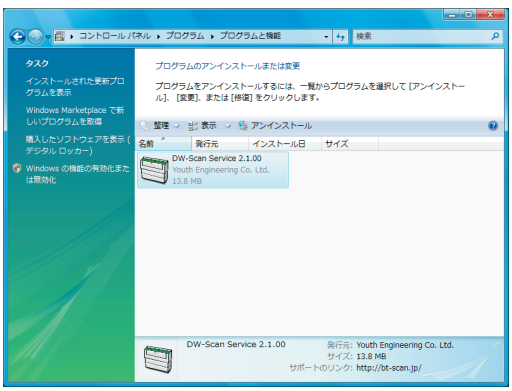
" いいえ "　を選んだときは、DW-Scan Service のインストールを中止します。

Note:　ASPI マネージャを置き換えた場合、以前の ASPI マネージャは DW-Scan Service をインストールしたフォルダの、"backupASPI" フォルダの中に移動されます。また、移動した ASPI マネージャはアンインストール時にもとの場所には移動しません。

2.1.3 コントロールパネルからアンインストールする

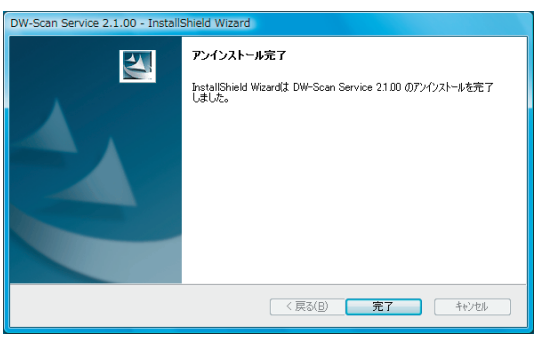


(1) コントロールパネルを開いてプログラムのアンインストールをダブルクリックします。



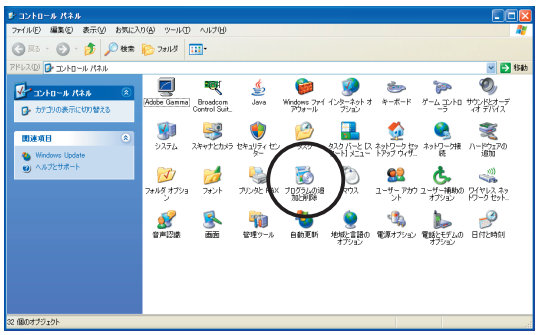
(2)DW-Scan Service 2.1.00 を選択してアンインストールをクリックします。

(3) アンインストール確認のダイアログが表示されます。”はい”をクリックするとアンインストールが開始されます。” いいえ” をクリックすればアンインストールを取り消します。



(4) アンインストール完了のダイアログが表示されたら、”完了”をクリックしてインストールプログラムを終了してください。

以上でアンインストールは終了しました。



※ コントロールパネルを開いて Windows XP ではプログラムの削除をクリックします。

Windows 2000 ではアプリケーションの追加と削除をクリックします。

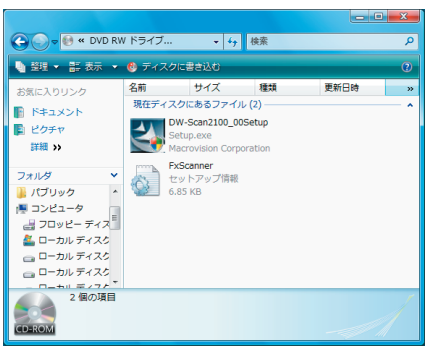
※「DW-Scan Service 2.1.00」を選択して、Windows XP では”削除”をクリックします。

Windows 2000 では”変更と削除”をクリックします。

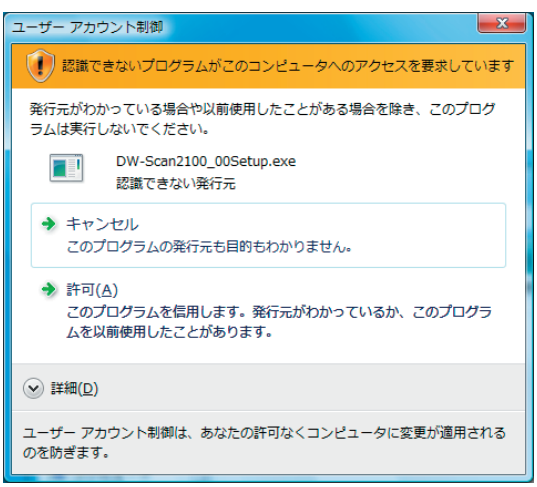
2.1.4 インストール CD からアンインストールする

(1) アンインストールするパーソナルコンピュータに、システム管理者の権限でログインします。

(2) インストール CD を CD ドライブに挿入し、“CD-ROM” アイコンを開いてディスクの内容を表示させます。



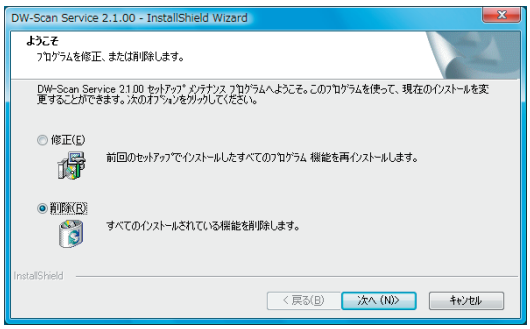
(3) DW-Scan2100_00Setup をダブルクリックしてプログラムを起動します。



(4)「許可（A）」を選択してください。

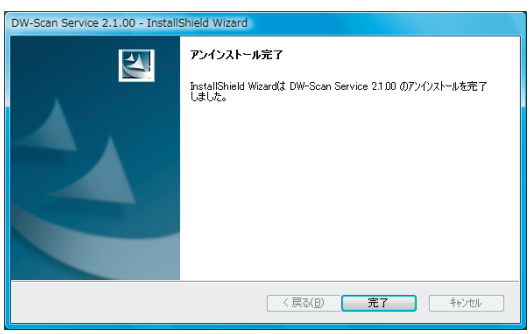
※ この表示は Windows Vista のみ表示されます。

Windows 2000,Windows XP では表示されません。



(5)「削除（R）」を選択し、”次へ” のボタンをクリックします。

(6) アンインストール確認のダイアログが表示されます。”はい” をクリックするとアンインストールが開始されます。”いいえ” をクリックすればアンインストールを取り消します。

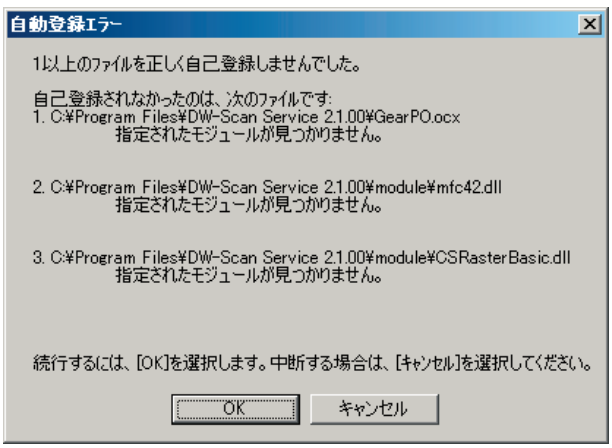


(7) アンインストール完了のダイアログが表示されたら”完了” をクリックしてインストールプログラムを終了してください。

以上でアンインストールは終了しました。

2.1.5 アンインストールが出来ないときの対処方法

・アンインストールを行おうとすると、次のようなダイアログが表示される場合



このような場合は、次のようなことが原因となっています。

DW-Scan Service をインストールしたフォルダを削除した。
DW-Scan Service をインストールしたフォルダを移動した。
DW-Scan Service をインストールしたフォルダ名を変えた。

この場合は手作業でアンインストールするしかありませんので、次のような方法で行ってください。

(1) DW-Scan Service をインストールしたフォルダを移動した場合や名前を変えてしまったときはそれを探し、そのフォルダと中味全てを削除します。
※消去するときは、必要なデータなどが残っていないか確認してください。

(2) DW-Scan Service が使用するレジストリキー情報を消去するために、一旦インストールを行い、その後アンインストールを行います。

Note: アンインストールを行っても以下のファイルやフォルダは削除されません。
DW-Scan Service を完全に削除したいときはエクスプローラなどで削除して下さい。

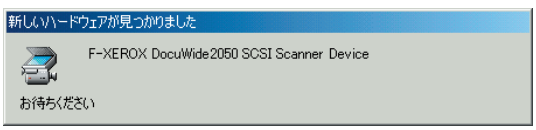
インストールフォルダ \logdir\joblog1.log
インストールフォルダ \logdir\joblog2.log
インストールフォルダ \logdir\errorlog1.log
インストールフォルダ \logdir\errorlog2.log
インストールフォルダ \logdir\ftplog1.log
インストールフォルダ \logdir\ftplog2.log
インストールフォルダ \logdir
インストールフォルダ \backupASPI\ASPI32.sys（古い ASPI マネージャ）
インストールフォルダ \backupASPI\WNASPI32.DLL（古い ASPI マネージャ）

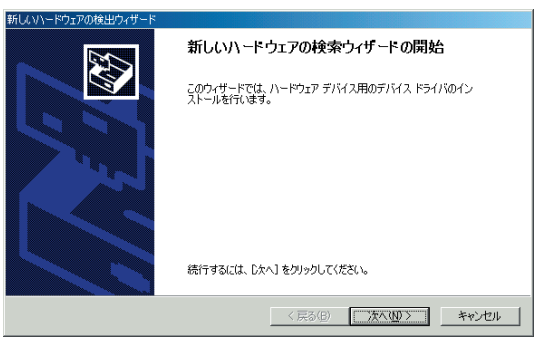
Note:　ASPI マネージャを置き換えた場合、以前の ASPI マネージャは DW-Scan Service をインストールしたフォルダの、"backupASPI" フォルダの中に移動されます。また、移動した ASPI マネージャはアンインストール時にもとの場所には移動しません。

2.2 スキャナデバイス登録

DocuWide2050/2051 などの機器が接続されていることを検出したら
ハードウェア検出ウイザードが表示されます。
ここでは、このハードウェアの検出ウィザードに対する設定について
説明します。

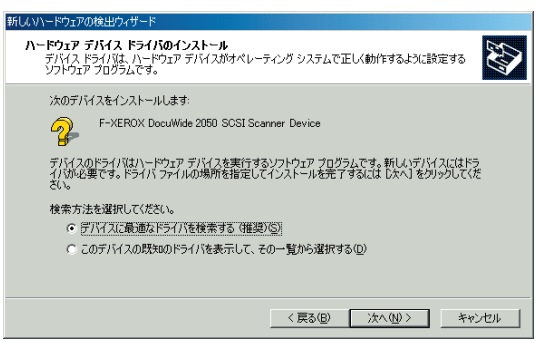
2.2.1 ハードウェア検出ウィザード





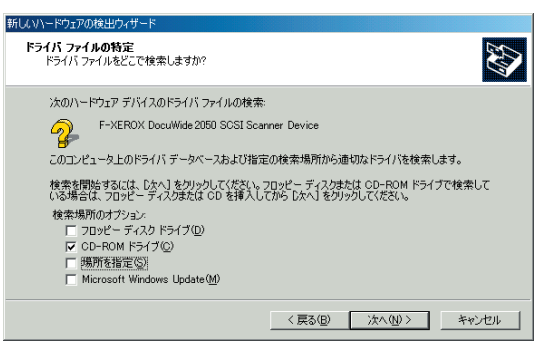
(1)　左図のようなハードウェアの
検出ウィザードが表示されます。

次へのボタンをクリックします。



(2)　デバイスドライバのインストール
ウィンドウになります。

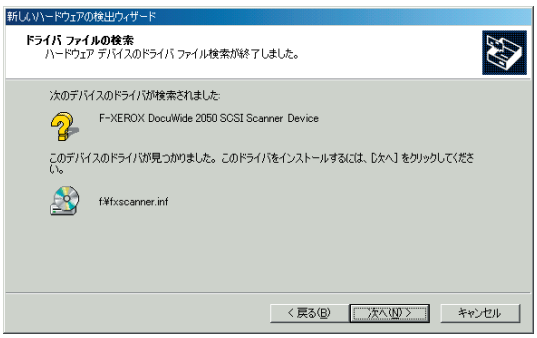
”デバイスに最適なドライバを検索
する”　を選択して、次へのボタン
をクリックします。



(3)　デバイスドライバの検索方法を
指定するウィンドウになります。

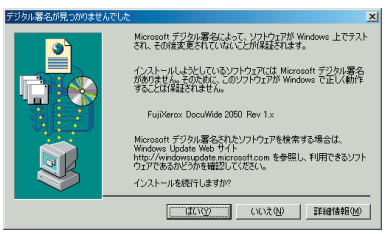
DW-Scan Service のインストール
CD を CD ドライブに挿入します。

”CD-ROM ドライブ”を選択して、
次へのボタンをクリックします。

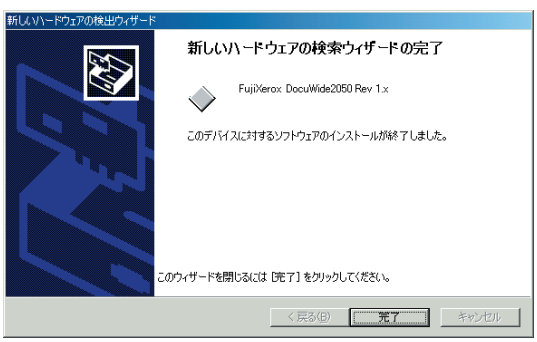


(4)　検索結果を表示するウィンドウになります。
自動検出したスキャナの型番／形式が表示されます。

次へのボタンをクリックします。

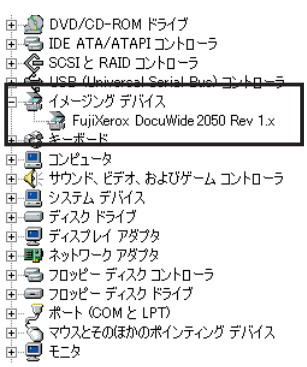


(5)　デジタル署名。
デジタル署名が見つからないための警告が表示されます。
デジタル署名が無くても正常に動作可能ですので、" はい" のボタンをクリックして続行します。



(6)　ウィザードの完了。
登録したスキャナの型番／形式が表示されます。

完了のボタンをクリックします。



(7)　以上でスキャナデバイスの登録は完了しました。
登録したデバイスは、デバイスマネージャに左図のように表示されます。

Note:　DW-Scan Service はスキャナデバイスの登録ができていなくても、正常に動作することができます。

第 3 章 操作方法

3.1 起動と終了
3.2 ウィンドウの説明
3.3 自動判定（定形サイズ）で読み取る
3.4 自動判定（シンクロ）で読み取る
3.5 特定サイズ指定で読み取る
3.6 設定書類の保存
3.7 保存した画像ファイルを表示する
3.8 保存した画像ファイルを編集する
3.9 画像ファイルのファイル名
3.10 ヘルプメニュー
3.11 FTP プリント
3.12 定形サイズ補正
3.13 ファイル名編集ツール

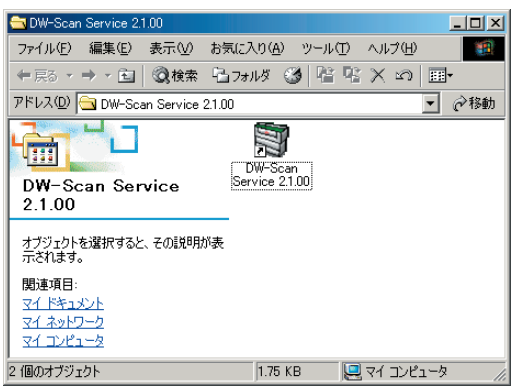
3.1 起動と終了

DW-Scan Service の起動方法、終了方法について記述します。

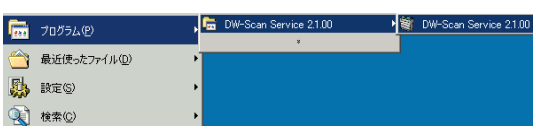
3.1.1 DW-Scan Service の起動

(1) 必ず、先に DocuWide2050/2051 の電源を投入し 使用できるようになってから、パーソナルコンピュータの電源を投入します。これを守らなければ DW-Scan Service が DocuWide2050/2051 を認識することができません。

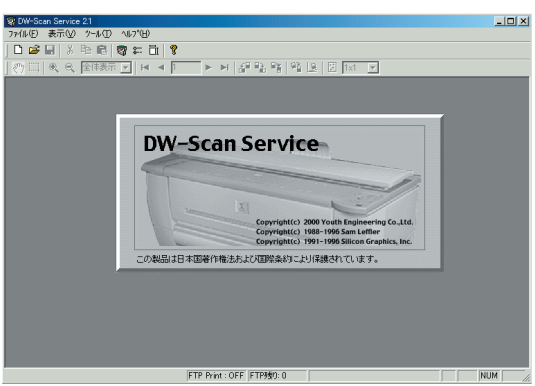
※ USB-SCSI 装置を使用する場合も同様です。必ず DocuWide2051 の電源投入及び接続の確認を行ってから、パーソナルコンピュータの電源を投入して下さい。



(2) ショートカットアイコン "DW-Scan Service2.1.00" をダブルクリックすると起動することができます。

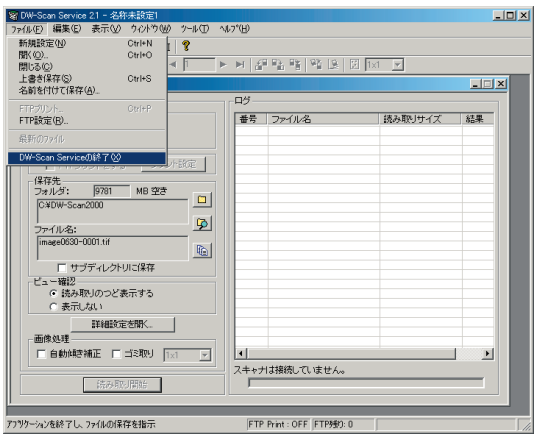


または、スタートメニューから "DW-Scan Service2.1.00" を選択することでも起動できます。



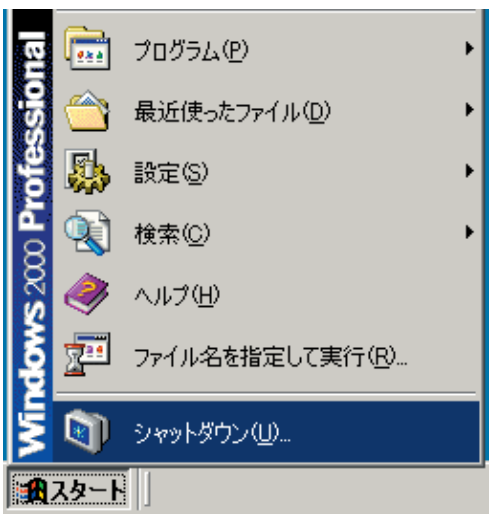
(3) DW-Scan Service が起動してウィンドウが表示されます。

3.1.2 DW-Scan Service の終了



(1) ファイルメニューから、"DW-Scan Service の終了 " を選択します。

Note:　読み取り中であれば、" 読み取り中止 " のボタンを押して読み取りを止めなければ、"DW-Scan Service の終了 " メニューが選択できません。



(2) スタートメニューの " シャットダウン " を選択して Windows を終了させ コンピュータの電源を切って良い状態になるのを確認します。

(3) 電源投入の順序とは逆に、先にパーソナルコンピュータの電源を切ってから DocuWide2050/2051 の電源を切ります。

※ USB-SCSI 装置を使用する場合も同様です。
タスクバーの「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」は使用しないでください。

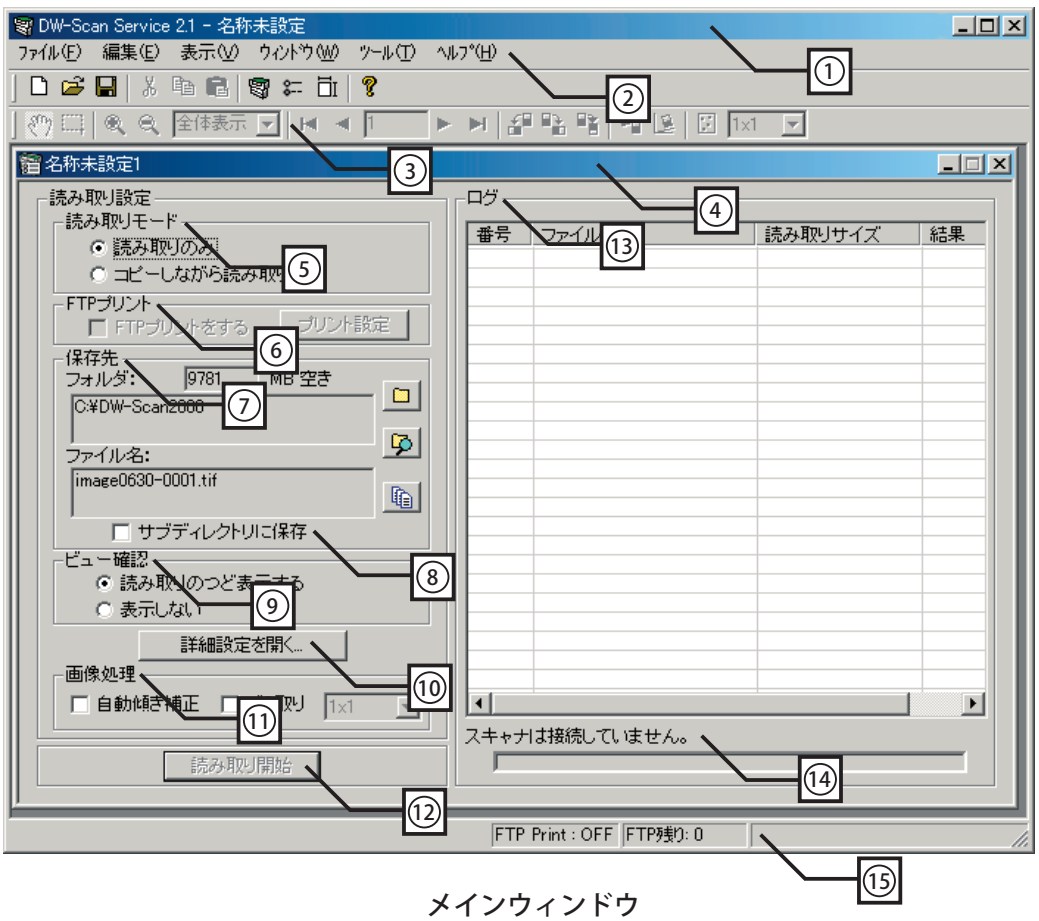
注意　DW-Scan Service での読み取り中にパーソナルコンピュータの電源を切断したり DW-Scan Service を強制終了させたりすると、DocuWide2050/2051 はスキャナーモードのままになってしまい、コピーとして使用することができなくなります。必ず DW-Scan Service を上記手順どおりに終了させてください。

USB-SCSI 装置を使用する場合は、USB ケーブルの抜けに、ご注意ください。

3.2 ウィンドウの説明

DW-Scan Service のウィンドウの各部について記述します。

3.2.1 メインウィンドウ



メインウィンドウ

① タイトル	アプリケーションのタイトルと開いている設定書類の名前が表示されます。
② メニューバー	アプリケーションへの各指示を行います。
③ ツールバー	クリックすることでメニューバーと同様の指示を行います。
④ 書類ウィンドウ	現在開いている設定書類の内容をグラフィックスで表示します。

⑤ 読み取りモード　　読み取りの方法を指定します。
コピーしながら読み取りの場合は、詳細設定ダイアログの指定ではなく DocuWide2050/2051 のコンソールパネルで設定します。

⑥ FTP プリント　　FTP プリントするかどうかを指定します。
読み取りを完了した画像ファイルを、逐次 FTP プリントの設定で指定されたサーバーに転送します。
サイズによってプリント振り分けを行う時は、プリント設定のボタンをクリックします。
※　FTP プリントを使用する場合は 3.11FTP プリントを参照し FTP 設定を行って下さい。

⑦ 保存先　　読み取ったイメージを保存するフォルダ、ファイル名を指定します。

　保存先フォルダを指定します。

　保存先フォルダを表示します。

　ファイル名リストを表示・非表示させます。

Note:　ファイル名リストダイアログは、ウィンドウのサイズを拡大縮小させることができます。

⑧ サブディレクトリに保存
読み取り毎に、⑦の保存先に指定したフォルダの中に新たなフォルダを作成して、そこに読み取りイメージを保存します。
作成されるフォルダの名前は、
設定ファイル名 +" 月日時分秒 " の形式になります。

⑨ ビュー確認　　イメージの読み取り後、保存する前に画像を表示して確認するかどうかを指定します。
ビューウィンドウの " 保存 "　" やり直し "
" 読み取り中止 " のボタンで読み取った原稿を保存するかどうか指示できます。

⑩ 詳細設定を開く　詳細ダイアログの表示・非表示を切り替えます。
詳細ダイアログが表示されているときは、
" 詳細設定を閉じる " の表示になります。

⑪ 画像処理　自動傾き補正 -- 傾いて読み込んだ読み取り画像をまっすぐに補正します。

ゴミ取り -- 読み取り画像から粒状のゴミを除去します。

⑫ 読み取り開始　指定された設定で読み取りを開始します。
読み取り中は " 読み取り中止 " の表示になります。

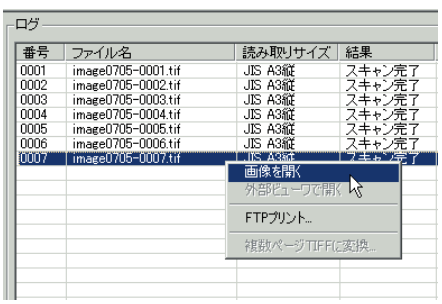
注意
(1) " 読み取りのみ " のときは、DocuWide2050/2051 がスキャナモードとして動作し、コンソールパネルの表示が変わります。
(2) " コピーしながら読み取り " のときは、DocuWide2050/2051 がスキャナ & コピーとして動作し、コンソールパネルの表示が変わります。
(3) " コピーしながら読み取り " のときは、他のコンピュータなどから "Plot" モードで使用することが出来ません。

読み取り開始できない時
DocuWide2050/2051 が次のような場合は読み取り開始することができません。
(1) コピーで使用中。
(2) エラー発生状態の時。
(3) 立ち上げ起動中。
(4) コンソールパネル操作後 30 秒以内。
(5) 原稿がセットされたまま、または詰まったまま。
(6) ソートコピーの場合

⑬ ログ　　読み取りの結果が表示されていきます。

Note: 正常に読み取りが終了したログのリストをダブルクリックすると画像イメージを表示することができます。
SHIFT キーを押しながらダブルクリックすると、環境設定で指定した外部ビューワによって画像イメージが表示されます。

これらの操作は、ログリスト上の開きたいファイルを右クリックすることでも可能です。



⑭ 処理ステータス　　現在の読み取り処理状態を表示します。

⑮ FTP ステータス　　FTP プリントの各状態を表示します。

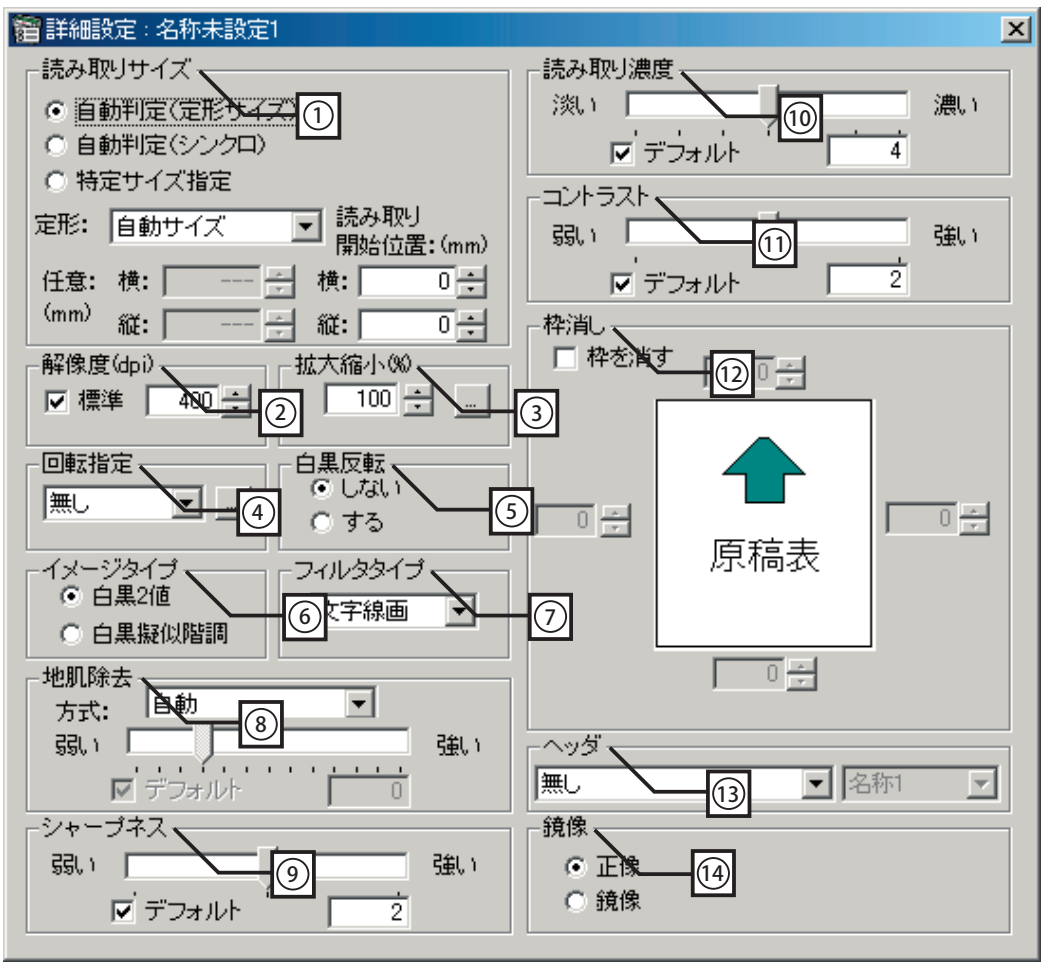
FTP Print : OFF　　FTP プリント設定の状態を示します。

FTP残り: 0　　FTP プリントの残り数を示します。

image0705-0001.tif　　FTP プリント中のファイル名を表示します。

FTPサーバーエラー　　FTP プリントエラー状態を示します。

3.2.2 詳細設定ダイアログ



詳細設定ダイアログ

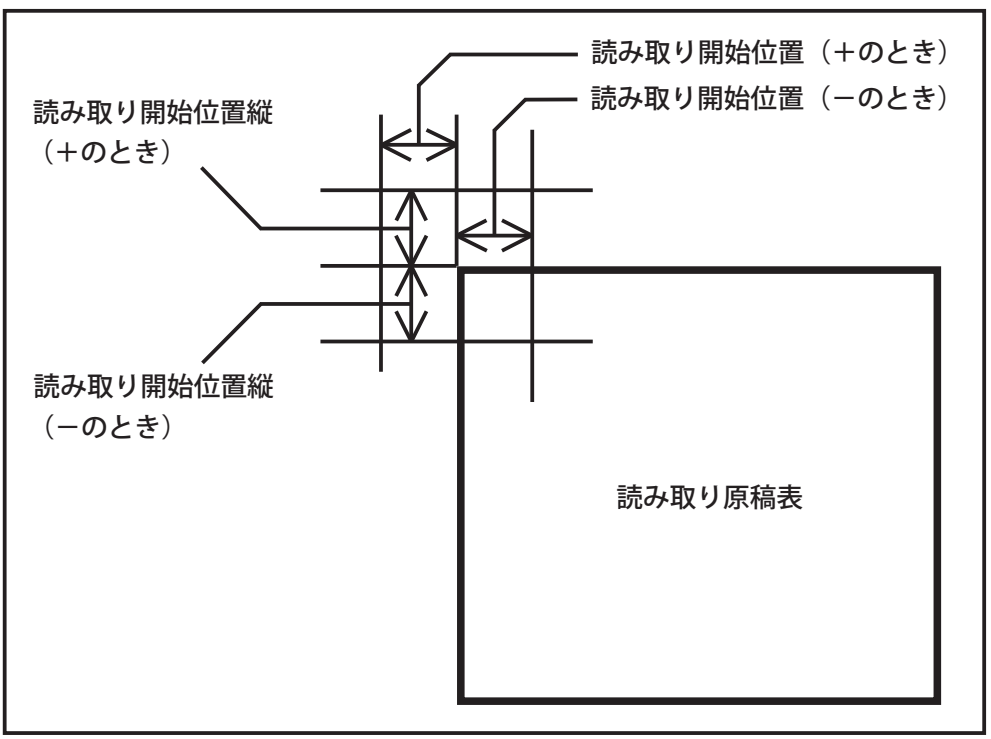
① 読み取りサイズ　　自動判定（定形サイズ）・自動判定（シンクロ）・特定サイズ指定を指定します。
自動判定（定形サイズ）の場合、読み込まれた原稿は以下に示す定形サイズに自動判定して保存されます。

A0 A1 A2 A3 A4 縦　　A1 A2 A3 A4 横
B1 B2 B3 B4 B5 縦　　B2 B3 B4 B5 横

特定サイズの場合、読み込まれた原稿は全てここで指定したサイズで保存されます。

自動判定（シンクロ）の場合、幅は DocuWide2050/2051 が判定した定形幅になり、長さは任意長で保存されます。

読み取り開始位置は、原稿を読み取るときの左上原点の位置を指定します。
＋を指定した場合、原稿の下端・右端が切り取られる読み取りになります。（－ 310 ～ 310mm）
－を指定した場合、原稿の上端・左端が切り取られる読み取りになります。（－ 310 ～ 310mm）



特定サイズ（任意サイズ）指定時は以下の寸法指定が可能です。
縦　1 ～ 10000mm まで
横　1 ～ 914mm まで
上記範囲は解像度が 400dpi かつ拡大縮小が 100% の場合で、解像度が 400dpi ではない場合や拡大縮小が 100% ではない場合は、指定できる範囲がかわります。

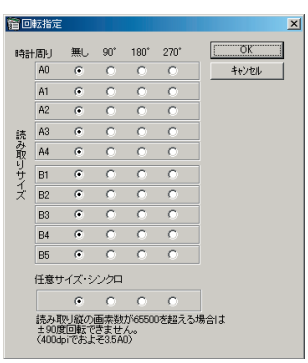
② 解像度　　100 ～ 1600dpi までの解像度を指定します。
1dpi 単位での指定が有効です。

注意
原稿サイズによって 指定できる最大解像度に制限があります。

A0 縦、A1 横	400dpi	B1 縦、B2 横	460dpi
A1 縦、A2 横	560dpi	B2 縦、B3 横	650dpi
A2 縦、A3 横	800dpi	B3 縦、B4 横	920dpi
A3 縦、A4 横	1120dpi	B4 縦、B5 横	1300dpi
A4 縦	1600dpi	B5 縦	1600dpi

③ 拡大縮小指定　　①の読み取りサイズで指定されたサイズを拡大縮小して保存します。
指定可能な範囲は 25 ～ 300%です。横のボタンをクリックすると、用紙サイズで指定できるダイアログが開きます。

④ 回転指定　　原稿を回転して保存します。横のボタンでサイズ毎に指定するダイアログが表示されます。



注意
長尺を含む特定サイズおよび自動判定（シンクロ）のときは、読み取り縦の画素数が 65500 を超える場合は 90 度 /270 度回転できません。
（400dpi でおよそ 3.5A0）

⑤ 白黒反転

読み取ったイメージの白黒を反転して保存します。

⑥ イメージタイプ

読み込む原稿の種類にあわせて白黒処理の方式を指定します。
" 白黒 2 値 " のときは、フィルタタイプが " 文字線画 " になります。
" 白黒擬似階調 " のときは、フィルタタイプが " 文字写真 " になります。

⑦ フィルタタイプ

読み込む原稿の種類にあわせてフィルタの方式を指定します。

・普通紙図面、プリンター出力、新聞
「文字線画」

・青焼き図面（イメージとの濃淡が少ない）
「淡い原稿」（地肌が薄い場合）
「濃い原稿」（地肌が濃い場合）

・第二原図
「透過原稿」（地肌が薄く透過する）
「濃い原稿」（地肌が濃い場合）

・トレペ・フィルム
「淡い原稿」（イメージが薄い）

・鉛筆書き
「文字線画」または「文字写真」

・ポスター・印画紙
「印画紙写真」または「印刷写真」

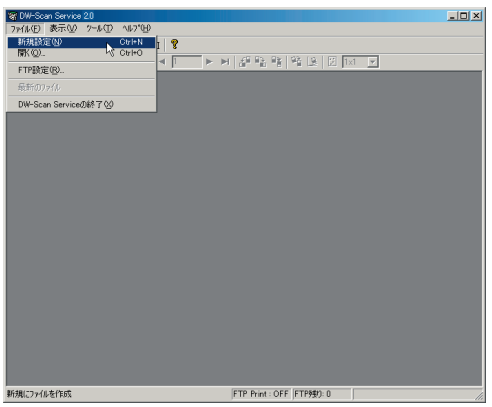
" 文字線画 "、" 淡い原稿 "、" 濃い原稿 "、" 単純 2 値 " のときは、イメージタイプが " 白黒 2 値 " になります。
" 文字写真 "、" 印画紙写真 "、" 印刷写真 " のときは、イメージタイプが " 白黒擬似階調 " になります。

⑧ 地肌除去	黄ばんだ原稿などの地色を除去する方式を指定します。 調整範囲はマニュアルのときー 3 ～ 9 まで指定することができます。スライドバーの刻みが段階の境を表します。
⑨ シャープネス	原稿の輪郭線の鮮明度を指定します。 調整範囲は 3 段階です。スライドバーの刻みが段階の境を表します。
⑩ 読み取り濃度	読み取るときの全体的な濃度を指定します。 調整範囲は 9 段階です。スライドバーの刻みが段階の境を表します。
⑪ コントラスト	読み取るときの全体的な白黒の対比を指定します。 調整範囲は 3 段階です。スライドバーの刻みが段階の境を表します。
⑫枠消し	読み取り原稿の上下左右端を消します。 調整範囲は 0 ～ 50mm です。
⑬ヘッダ	読み取り原稿にヘッダを追加します。
⑭鏡像	読み取り原稿を鏡像で読み取ります。 自動サイズ（定形サイズ）・自動サイズ（シンクロ）のときだけ有効です。

3.3 自動判定（定形サイズ）で読み取る

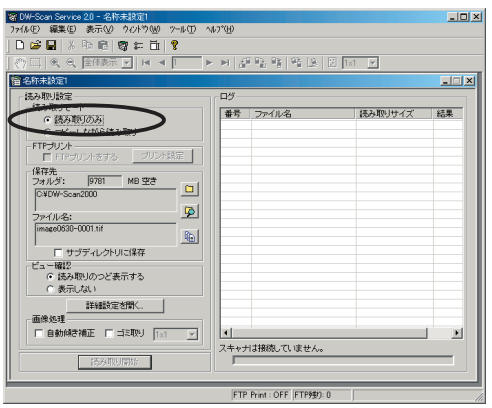
自動判定（定形サイズ）で読み取る操作方法について記述します。
読み取る原稿が A 系列の定形の場合に使用します。

3.3.1 手順



(1) DW-Scan Service を起動して、ファイルメニューから新規設定を選択します。

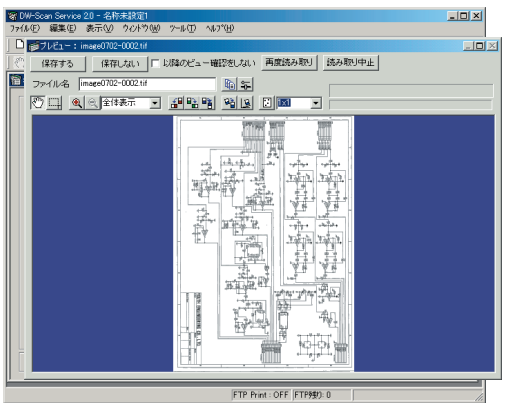
Note: ツールバーの新規設定ボタンでも同様の操作が出来ます。



(2) 読み取りモードを読み取りのみに指定して、保存するファイル名やフォルダを必要に応じて指定します。

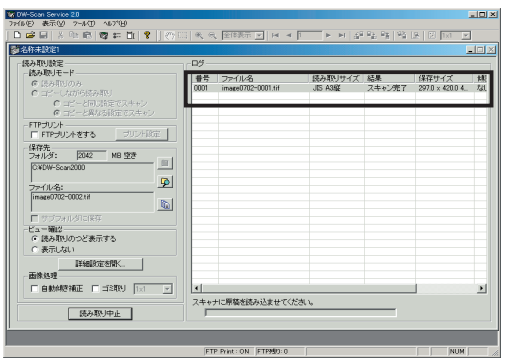
Note: ファイル名は新規設定を作成したときに、以下のような名前を自動的に生成します。
imageXXYY-0001.tif
XX、YY は月日

(3) 読み取り開始ボタンをクリックしてから、DocuWide2050/2051 に原稿を読み込ませます。



(4) 読み取り中のインジケータが表示された後、読み取った原稿のプレビューが表示されます。

(5) 読み取りの指示を行います
" 保存 "-- 読み取った原稿を保存して次の読み取りを開始します。
" やり直し "-- もう一度読み取りを行います。（ファイル名番号は進みません）
" 読み取り中止 "-- 読み取りを中止します。



Note: 以降のビュー確認をしないを選ぶと、ビュー確認無しで読み取りを行います。

(6) ログに結果が表示されます。

Note: 読み取りを終了した後、このログのリストをダブルクリックすると、読み取ったイメージを表示することが出来ます。ウィンドウタイトルに表示される寸法は読み取りで指定した解像度換算での値です。

(7) 読み取る原稿がまだある場合は、DocuWide2050/2051 に次の原稿を読み込ませます。もう無い場合は、読み取り中止ボタンをクリックして、終了させます。

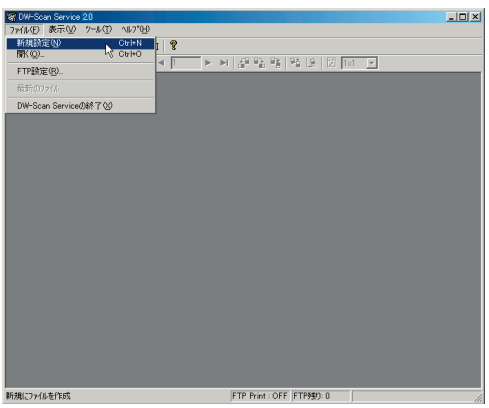
(8) この様にして、1000 枚（最大 9999 枚まで変更可能）まで連続して読み取らせながら保存する作業を続けることが出来ます。

(9) 自動判定（定形サイズ）のときは、DocuWide2050/2051 の画像メモリが許す限り 先に連続して読み取らせておくことが出来ます。

3.4 自動判定（シンクロ）で読み取る

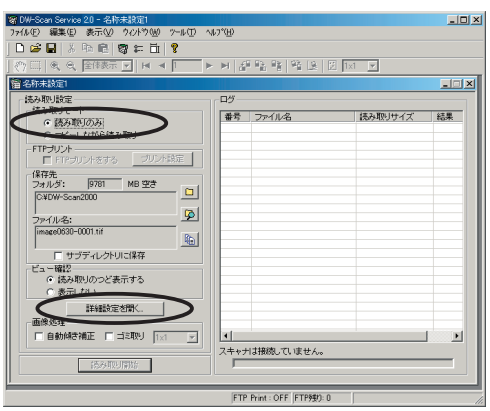
自動判定（シンクロ）で読み取る操作方法について記述します。
原稿が A 系列の定形幅で、長さが任意のときに使用します。

3.4.1 手順



(1) DW-Scan Service を起動して、ファイルメニューから新規設定を選択します。

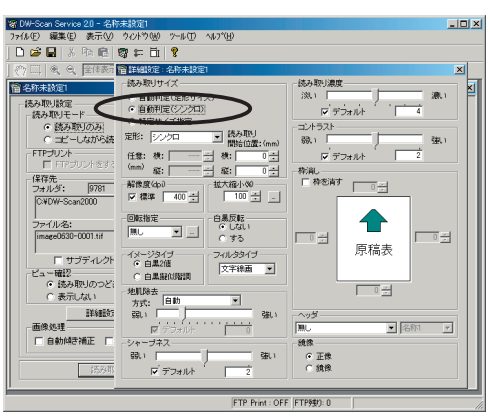
Note: ツールバーの新規設定ボタンでも同様の操作が出来ます。



(2) 読み取りモードを読み取りのみに指定して、保存するファイル名やフォルダを必要に応じて指定します。

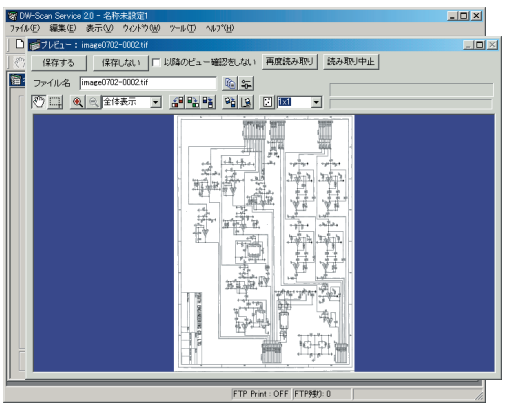
Note: ファイル名は新規設定を作成したときに、以下のような名前を自動的に生成します。
imageXXYY-0001.tif
XX、YY は月日

(3) 詳細設定ボタンをクリックしてダイアログを表示させます。



(4) 自動判定（シンクロ）をクリックします。

(5) 読み取り開始ボタンをクリックしてから、DocuWide2050/2051 に原稿を読み込ませます。



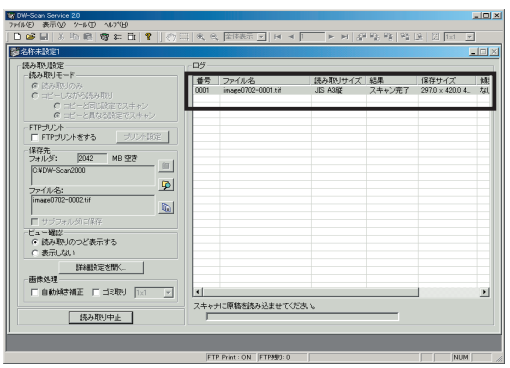
(6) 読み取り中のインジケータが表示された後、読み取った原稿のプレビューが表示されます。

(7) 読み取りの指示を行います

" 保存 "-- 読み取った原稿を保存して次の読み取りを開始します。

" やり直し "-- もう一度読み取りを行います。（ファイル名番号は進みません）

" 読み取り中止 "-- 読み取りを中止します。



(8) ログに結果が表示されます。

Note: 読み取りを終了した後、このログのリストをダブルクリックすると、読み取ったイメージを表示することが出来ます。

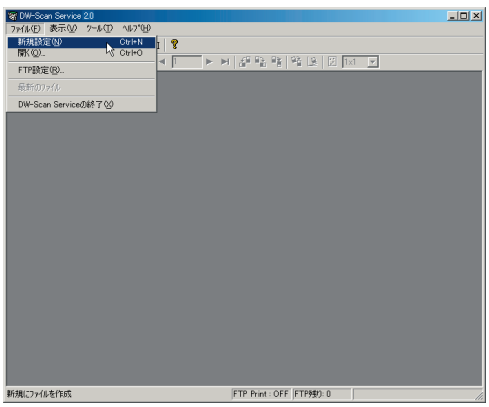
(9) 読み取る原稿がまだある場合は、DocuWide2050/2051 に次の原稿を読み込ませます。もう無い場合は、読み取り中止ボタンをクリックして、終了させます。

(10) この様にして、1000 枚（最大 9999 枚まで変更可能）まで連続して読み取らせながら保存する作業を続けることが出来ます。

3.5 特定サイズ指定で読み取る

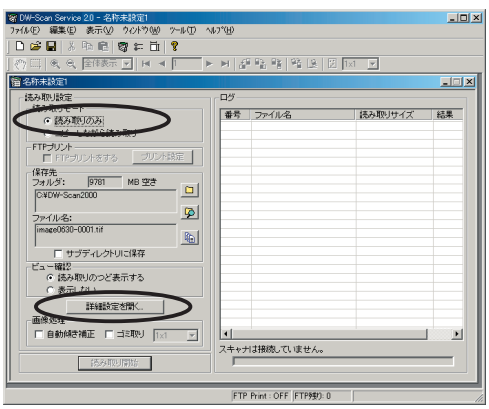
特定サイズ指定で読み取る操作方法について記述します。
特定のサイズ・定形でないサイズで読み取りするときに使用します。

3.5.1 手順



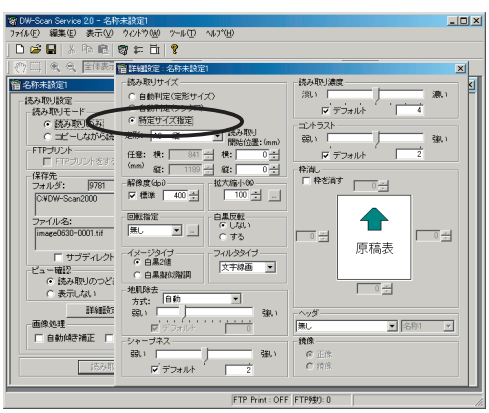
(1) DW-Scan Service を起動して、ファイルメニューから新規設定を選択します。

Note: ツールバーの新規設定ボタンでも同様の操作が出来ます。



(2) 読み取りモードを読み取りのみに指定して、保存するファイル名やフォルダを必要に応じて指定します。

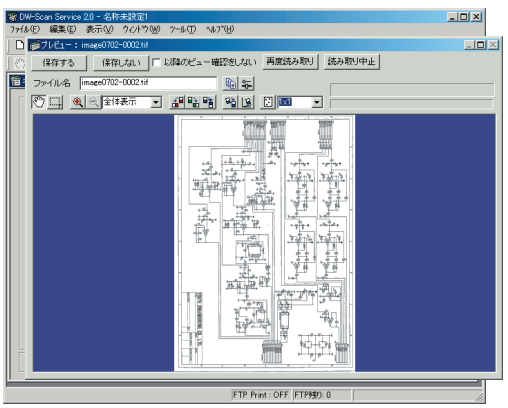
Note: ファイル名は新規設定を作成したときに、以下のような名前を自動的に生成します。
imageXXYY-0001.tif
XX、YY は月日



(3) 詳細設定ボタンをクリックしてダイアログを表示させます。

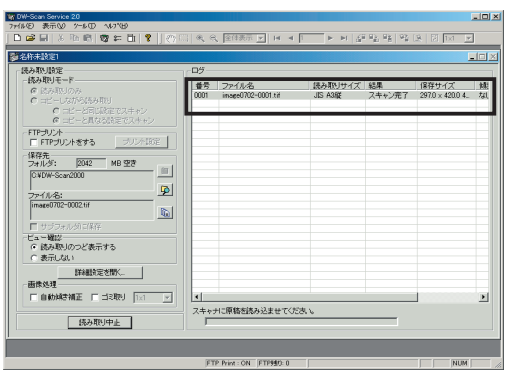
(4) 特定サイズ指定をクリックして、読み取るサイズを指定します。

(5) 読み取り開始ボタンをクリックしてから、DocuWide2050/2051 に原稿を読み込ませます。



(6) 読み取り中のインジケータが表示された後、読み取った原稿のプレビューが表示されます。

(7) 読み取りの指示を行います
" 保存 "-- 読み取った原稿を保存して次の読み取りを開始します。
" やり直し "-- もう一度読み取りを行います。（ファイル名番号は進みません）
" 読み取り中止 "-- 読み取りを中止します。



(8) ログに結果が表示されます。

Note: 読み取りを終了した後、このログのリストをダブルクリックすると、読み取ったイメージを表示することが出来ます。

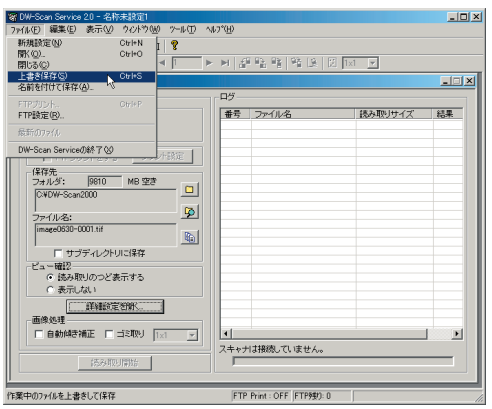
(9) 読み取る原稿がまだある場合は、DocuWide2050/2051 に次の原稿を読み込ませます。もう無い場合は、読み取り中止ボタンをクリックして、終了させます。

(10) この様にして、1000 枚（最大 9999 枚まで変更可能）まで連続して読み取らせながら保存する作業を続けることが出来ます。

3.6 設定書類の保存

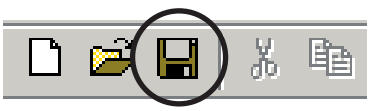
読み取りで使用した設定をファイルとして保存することで、次回読み取り時に再利用することができます。
設定書類の保存方法について記述します。

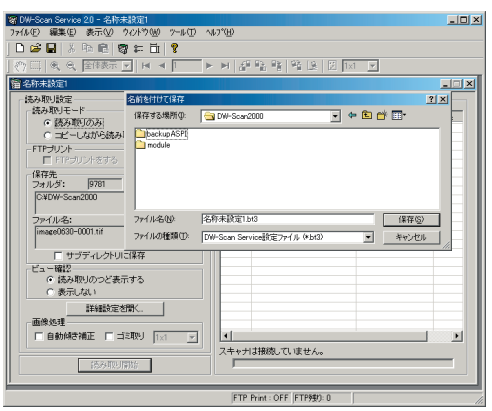
3.6.1 手順



(1) ファイルメニューから上書き保存を選択します。

Note: ツールバーの保存ボタンでも同様の操作が出来ます。





(2) 保存するダイアログが表示されます。

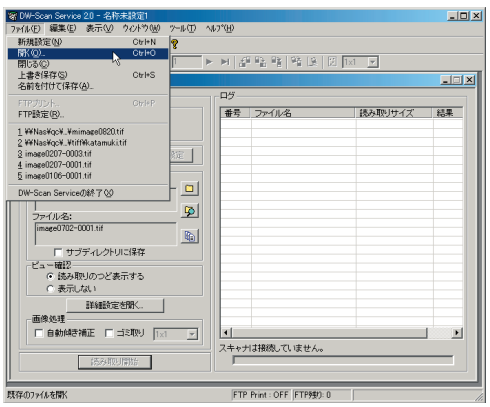
(3) 保存するフォルダ、ファイル名を指定して保存を行います。

Note: 保存した設定書類のアイコンをダブルクリックするか、ファイルメニューの開くを選択して、設定を呼び出すことが出来ます。

3.7 保存した画像ファイルを表示する

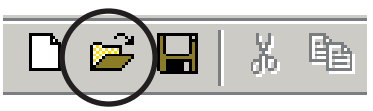
保存した画像ファイルの表示方法について記述します。

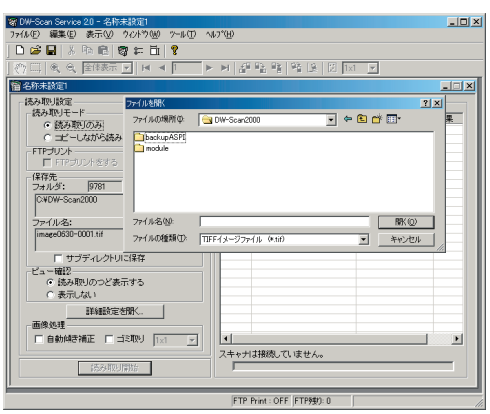
3.7.1 手順



(1) ファイルメニューから開くを選択します。

Note: ツールバーの開くボタンでも同様の操作が出来ます。



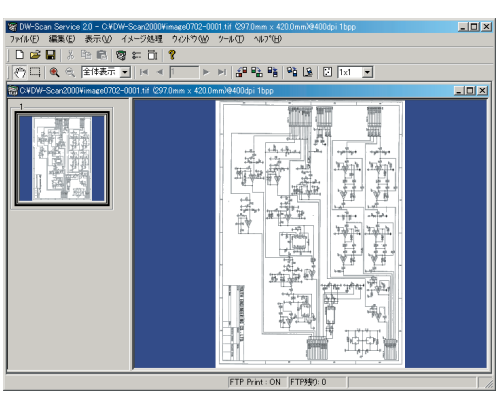


(2) ファイルの種類を TIFF イメージファイルに選択します。

(3) 開きたい画像ファイルを選択して、OK ボタンをクリックします。

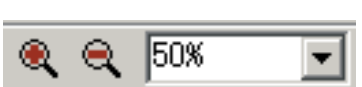
(4) 画像ファイルがウィンドウ内に表示されます。

Note: 画像ウィンドウのタイトルに表示されるサイズは読み取りを行った解像度における寸法を示します。



Note: ファイルマネージャで画像ファイルをダブルクリックしたり、DW-Scan Service のウィンドウにドラッグ＆ドロップすることでも同様の操作が出来ます。

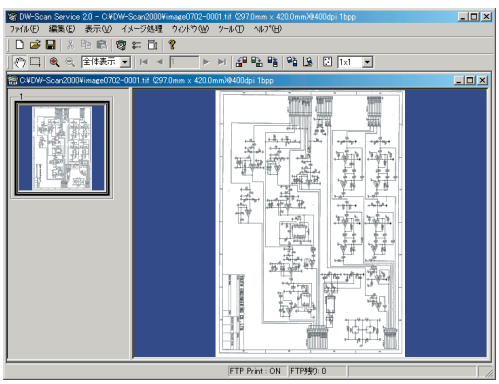
(5) ツールバーの表示倍率を変えることで画像を拡大縮小して表示することが出来ます。（5 ～ 100%）



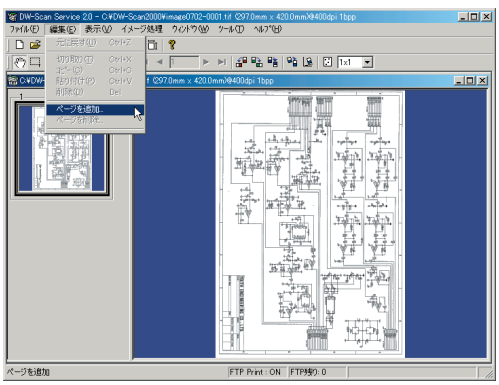
3.8 保存した画像ファイルを編集する

保存した画像ファイルにページを追加 / 削除する方法について記述します。

3.8.1 ページの追加

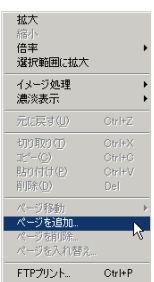


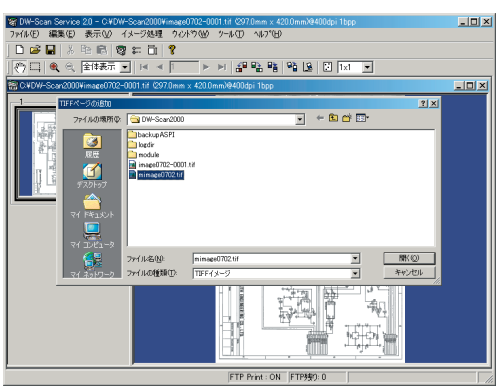
(1) 編集する TIFF ファイルを開きます。



(2) 追加するページを表示させて、編集メニューからページを追加を選択します。

Note: 開いている画像の上で右クリックすることでも行えます。



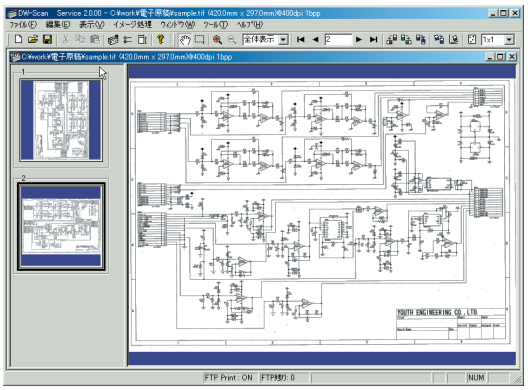


(3) 追加する TIFF ファイルを指定します。

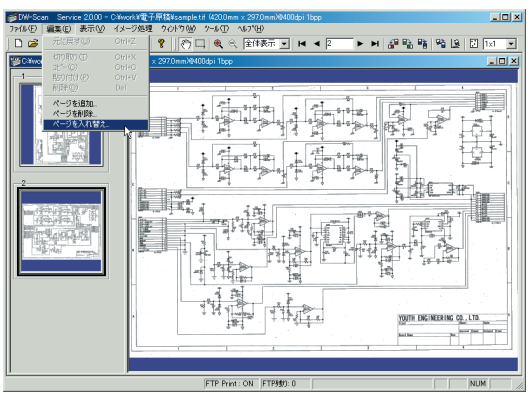
Note: 追加する TIFF ファイルが複数ページ TIFF の場合は、全てのページが追加されます。
表示しているページの後ろにページが追加されます。

注意
追加できる TIFF ファイルは白黒 2 値の画像に限られます。
最大のページ数は 65535 ページまでです。

3.8.2 ページの入れ替え

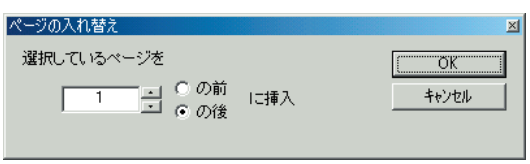


(1) 編集する TIFF ファイルを開きます。



(2) 入れ替えさせたいページを表示させて、編集メニューから、ページを入れ替えを選択します。

Note: 開いている画像の上で右クリックすることでも行えます。

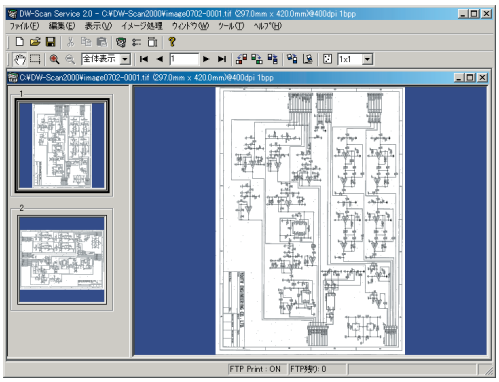


(3) 入れ替え先のページを指定して、OK ボタンをクリックします、

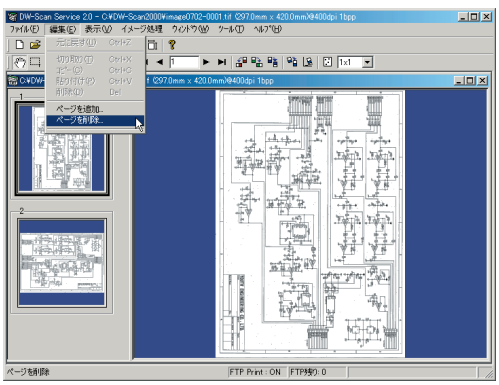
注意

ページの入れ替えができる TIFF ファイルは白黒 2 値の画像に限られます。

3.8.3 ページの削除

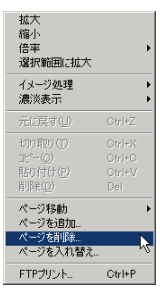


(1) 編集する TIFF ファイルを開きます。



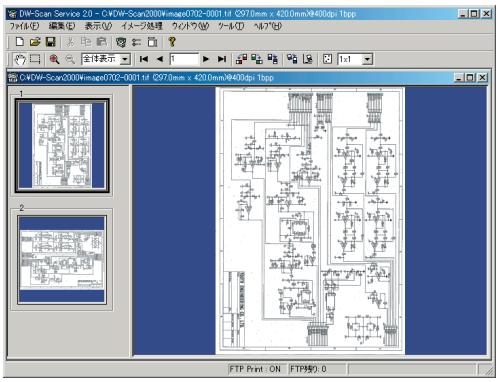
(2) 削除するページを表示させて、編集メニューから、ページを削除を選択します。

Note: 開いている画像の上で右クリックすることでも行えます。

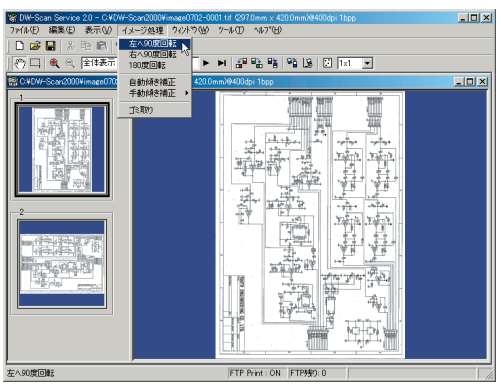


3.8.4 画像の回転

画像処理を行うには、画像の編集を行う設定にする必要があります。
3.10.6 編集初期設定を参照して下さい。

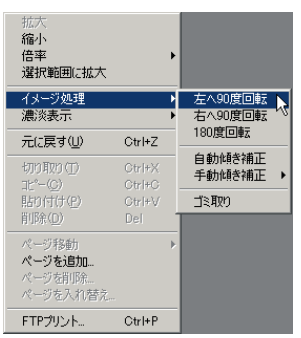


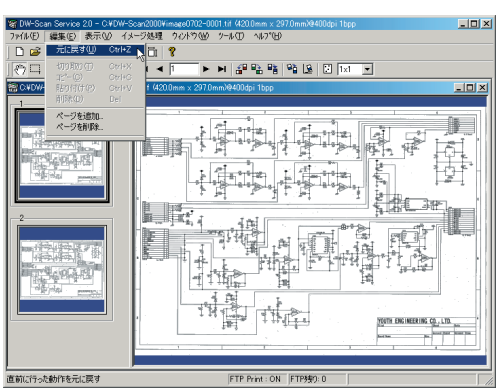
(1) 編集する TIFF ファイルを開きます。



(2) 回転させるページを表示させて、イメージ処理メニューから、左へ 90 度回転 / 右へ 90 度回転 /180 度回転を選択します。

Note: 開いている画像の上で右クリックすることでも行えます。

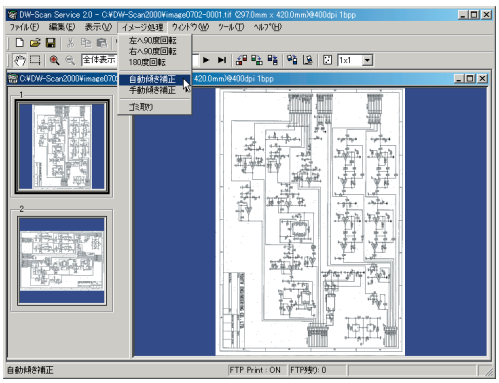




(3) 編集メニューから元に戻すを選択すると回転させる前の状態に戻すことができます。

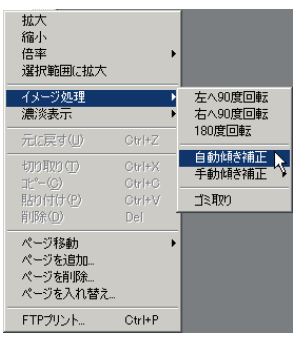
3.8.5 自動傾き補正

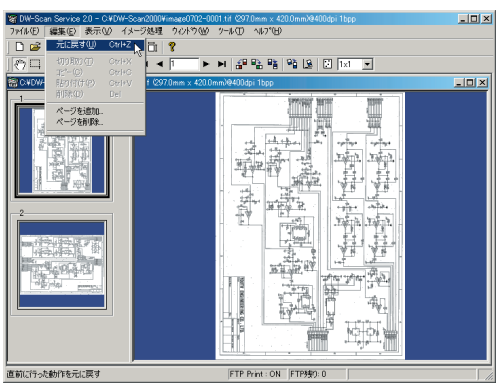
画像処理を行うには、画像の編集を行う設定にする必要があります。
3.10.6 編集初期設定を参照して下さい。



(1) 傾き補正させるページを表示させて、イメージ処理メニューから、自動傾き補正を選択します。

Note: 開いている画像の上で右クリックすることでも行えます。





(2) 編集メニューから元に戻すを選択すると補正前の状態に戻すことができます。

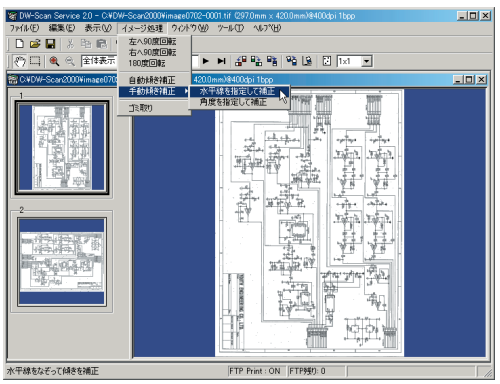
Note: 自動傾き補正は、画像の特徴を捕らえて自動的に行いますが、次のような画像に対しては機能しないことがあります。

- ほとんど真っ白　あるいは真っ黒の画像
- 枠のない写真等が配置された画像
- 枠が端から 50mm の範囲にない原稿
- 傾きが 4.3 度以上の原稿
- 傾きが 0.063 度以下の原稿

自動傾き補正ができないときは、手動傾き補正を行って下さい。

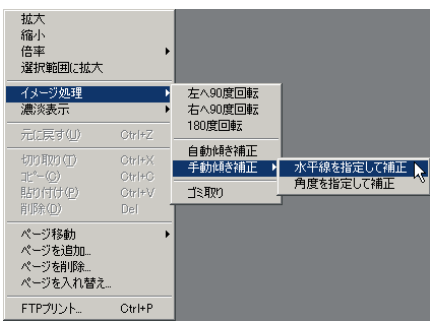
3.8.6 手動傾き補正 - 水平線を指定

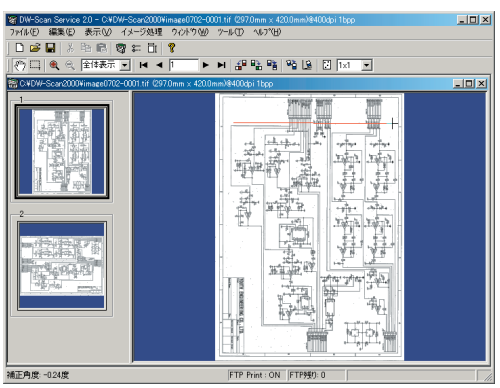
画像処理を行うには、画像の編集を行う設定にする必要があります。
3.10.6 編集初期設定を参照して下さい。



(1) 傾き補正させるページを表示させて、イメージ処理メニューから、手動傾き補正 -> 水平線を指定して補正を選択します。

Note: 開いている画像の上で右クリックすることでも行えます。

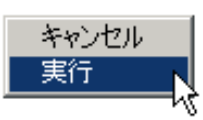


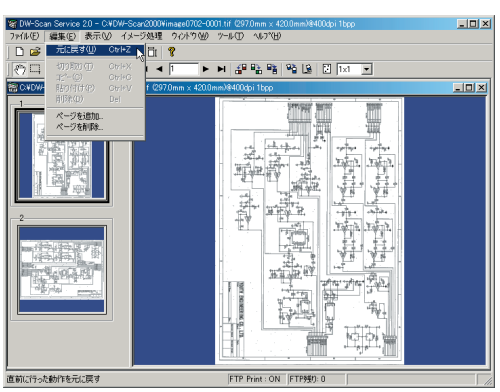


(2) 十字カーソルで画像上の水平にしたい線分を左クリックします。

(3) 十字カーソルで画像上の水平にしたい線分をなぞり、赤線が画像上の水平にしたい線分に一致させるようにします。

(4) 再び右クリックをするとメニューが表示されて、実行を選択すると補正が行われます。

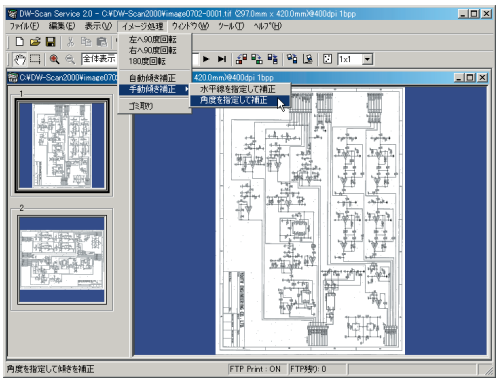




(5) 編集メニューから元に戻すを選択すると補正前の状態に戻すことができます。

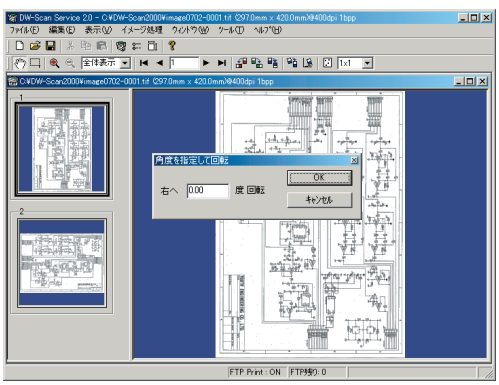
3.8.7 手動傾き補正 - 角度を指定

画像処理を行うには、画像の編集を行う設定にする必要があります。
3.10.6 編集初期設定を参照して下さい。



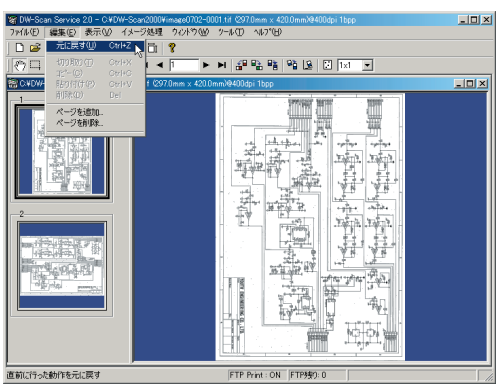
(1) 傾き補正させるページを表示させて、イメージ処理メニューから、手動傾き補正 -> 角度を指定して補正を選択します。

Note: 開いている画像の上で右クリックすることでも行えます。



(2) 回転したい角度を入力します。単位は 0.01 度の単位まで指定することができます。

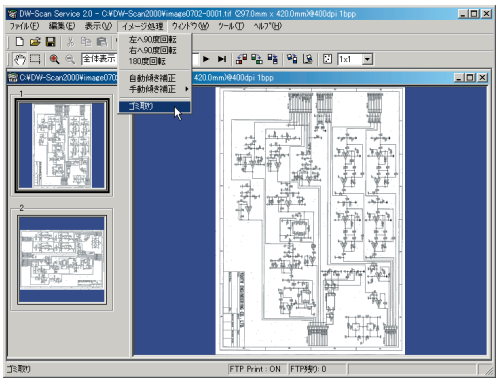
(3) OK ボタンをクリックすると回転が実行されます。



(4) 編集メニューから元に戻すを選択すると補正前の状態に戻すことができます。

3.8.8 ゴミ取り

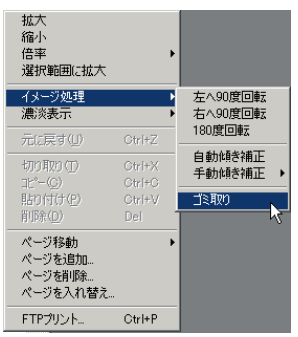
画像処理を行うには、画像の編集を行う設定にする必要があります。
3.10.6 編集初期設定を参照して下さい。

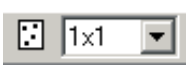


(1) ゴミ取りさせるページを表示させて、ゴミ取りのサイズを指定します。

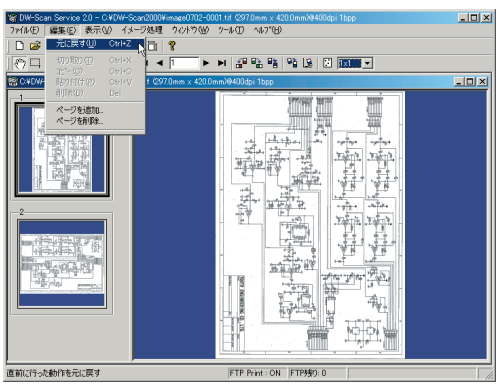
(2) イメージ処理メニューから、ゴミ取りを選択します。

Note: 開いている画像の上で右クリックすることでも行えます。

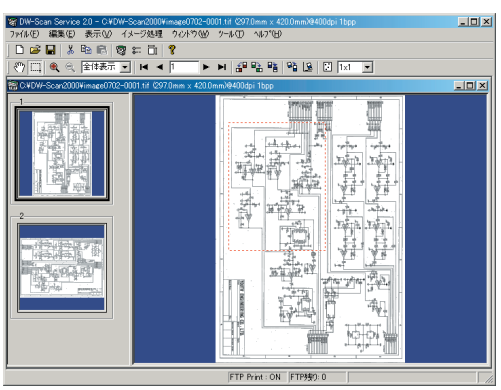




Note: ツールバーのボタンからゴミ取りを実行させることができます。
プルダウンメニューからゴミ取りのサイズを指定します。



(2) 編集メニューから元に戻すを選択すると補正前の状態に戻すことができます。



(3) 領域選択を行うと指定した領域のみゴミ取りを行わせることができます。

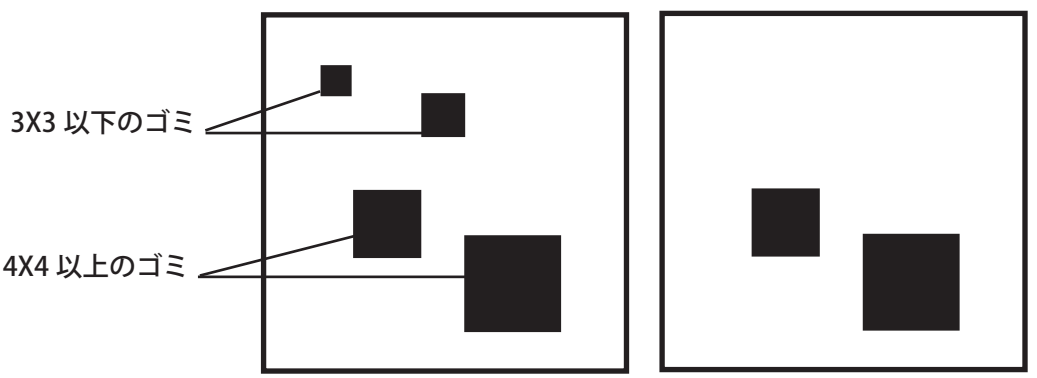
Note: ツールバーの領域選択ボタンをクリックしてから、ゴミ取りを行う領域をマウスでドラッグして選択します。

3.8.9 ゴミ取りの性能

ゴミ取りは、画像から指定した画素サイズ（N × N）以下の粒状のゴミを取り除きますが、詳しい性能を以下に示します。

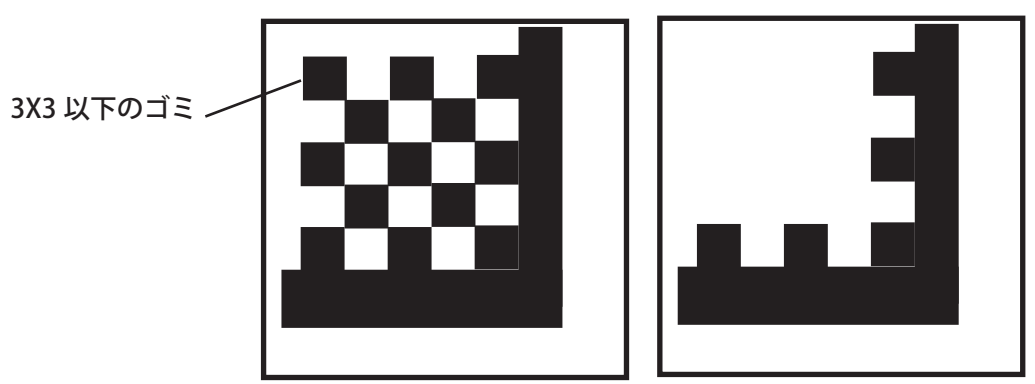
ゴミとみなすかどうかの基準は、指定されたサイズの周囲が全て白いかどうかで決まります。

サイズを 3x3 に指定　　ゴミ取り前　　ゴミ取り後



以下のような市松模様の場合も除去されます。

サイズを 3x3 に指定　　ゴミ取り前　　ゴミ取り後



3.9 画像ファイルのファイル名

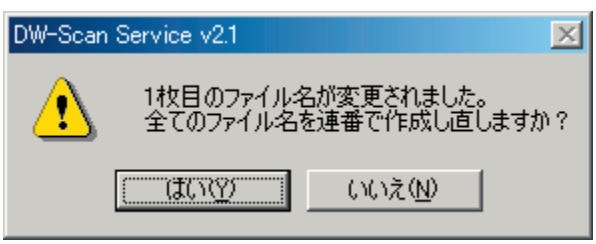
保存するときの画像ファイルのファイル名について記述します。

3.9.1 自動ファイル名

複数の画像ファイルを保存するときは、以下のようにしてファイル名が自動的に付けられて保存されます。

■ 新規に設定書類を作成した場合、一枚目のファイル名は "imageXXYY-0001.tif" になります。
（XXYY は使用しているコンピュータの日付が入り、例えば 6 月 3 日である場合 一枚目のファイル名は "image0603-0001.tif" になります）

■ ファイル名リストの 1 枚目のファイル名（0001）を変更した場合は、次のようなダイアログが表示されます。



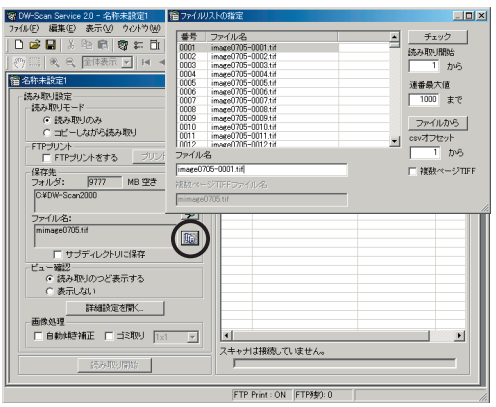
" はい " を選ぶと一枚目はその指定したファイル名に連番を付けたファイル名に変わり、二枚目以降も連番を付加したファイル名が自動的に作成されます。
例えば、指定したファイル名が "sample.tif" の場合、
1 枚目のファイル名は　"sample-0001.tif"
2 枚目のファイル名は　"sample-0002.tif"
3 枚目のファイル名は　"sample-0003.tif"
...
1000 枚目のファイル名は　"sample-1000.tif"
というふうになります。

" いいえ " を選ぶと一枚目はそのままで、二枚目以降のファイル名も変更されません。

■ このようにして、任意の名前で始まる連番のファイル名を 1000 枚目（最大 9999 枚まで変更可能）まで自動的に生成します。

3.9.2 ファイル名を指定する

通常は自動的にファイル名を生成しますが、各々のファイル名を指定することも出来ます。



(1) 設定ウィンドウの、ファイル名入力欄の右にあるボタン をクリックすると " ファイルリストの指定 " というダイアログが表示されます。

(2) 変更したいファイル名を選択して、下の編集欄のファイル名を変更します。

(3) " チェック " ボタンをクリックすると、同名のファイル名が入力されていないかチェックを行います。

Note: 連番最大値を最大の 9999 に設定した場合、チェックには数分かかり、その間は他の操作ができません。ファイル名の重複が明らかにない場合　" チェック " ボタンは無意味なので押さないで下さい。

(4) 同名のファイル名が見つかった場合は、ダイアログで表示します。

Note:" 読み取り開始 " 指定欄で、読み取り開始した時に 最初に保存するときのファイル名を指定できます。(読み取りを一時中止した時は次の読み取り番号が表示されます)

Note:" ファイルから " のボタンをクリックすると、テキストファイルから各々のファイル名を指定することが出来ます。テキストファイルはノートパッドなどで作成し、拡張子を ".csv" にしてください。例えば 一枚目のファイル名を "sample.tif"、二枚目のファイル名を "sample2.tif" にしたい場合、テキストファイルの内容は以下の様になります。

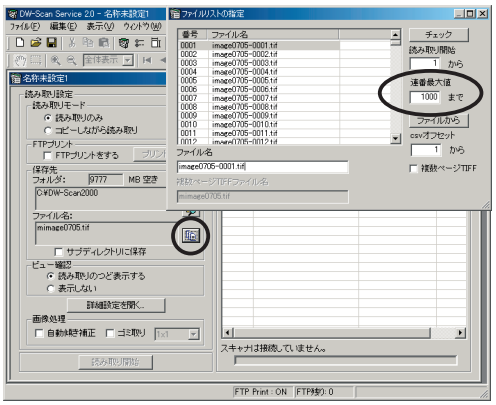
sample.tif (改行)
sample2.tif (改行)

■ csv オフセットの指定は、ファイルから読み込んで指定するときに、リストのどの行から指定するかを指定します。

■ ファイル名の数は最大 9999 まで指定できます。連番最大値に満たない場合、以降のファイル名は最後のファイル名に連番を付加したファイル名になります。上記の例の場合、三枚目のファイル名は "sample2-0001.tif" になります。

3.9.3 連番最大値を指定する

新規に設定ファイルを開いたときは、自動的にファイル名を連番で 1000 まで生成しますが、連番の最大値を指定することも出来ます。



(1) 設定ウィンドウの、ファイル名入力欄の右にあるボタン をクリックすると " ファイルリストの指定 " というダイアログが表示されます。

(2) 連番最大値欄に読み取りの最大連番数を入力します。指定できる範囲は 1 ～ 9999 までです。

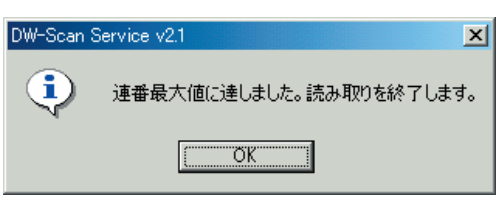
Note: 連番最大値を増やした場合、以前の連番の最後のファイル名が XXXXXX-YYYY.tif　のフォーマットになっているときは、最後のファイル名の連番を利用して増やされたファイル名を自動的に生成します。
YYYY は変更前の連番最大値と一致している必要があります。

例）連番最大値を 1000 から 2000 に変更

0999　sample-0999.tif
1000　sample-1000.tif

0999　sample-0999.tif
1000　sample-1000.tif
1001　sample-1001.tif
1002　sample-1002.tif
1003　sample-1003.tif
・・・
2000　sample-2000.tif

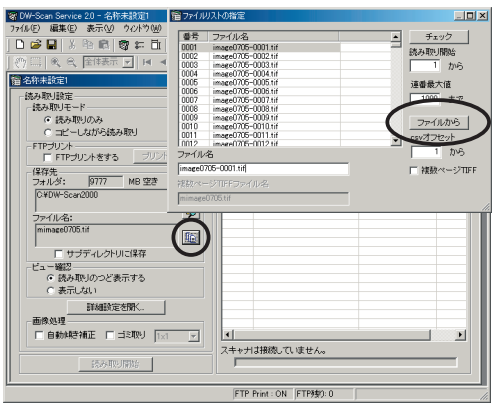
Note: 読み取りが連番最大値に達したときは、 以下のダイアログが表示されます。



OK ボタンを押下すると、読み取りは終了します。

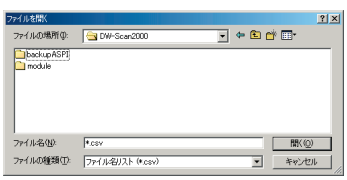
3.9.4 表計算のファイルからファイル名を指定する

3.9.2 の説明の他に、Excel 等の表計算アプリケーションの出力するカンマ区切りのテキストファイルをファイル名指定として利用できます。



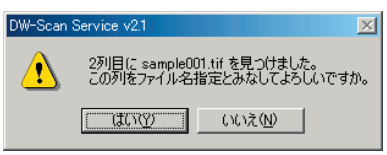
(1) 設定ウィンドウの、ファイル名入力欄の右にあるボタン をクリックすると " ファイルリストの指定 " というダイアログが表示されます。

(2) " ファイルから " のボタンをクリックします。



(3) Excel 等で保存した .csv ファイルを選択して "OK" ボタンをクリックします。

Note: ファイルリストに .csv ファイルを Drag&Drop しても同様の処理ができます。



(4) 1 行目の列に ".tif" を含むデータが見つかった場合には左に示すようなダイアログを表示します。
" はい " をクリックするとその列をファイル名として読み込みます。

(5) " いいえ " をクリックするか、1 行目に ".tif" を含むデータが見つからなかった時は、左に示すようなリストを表示します。

(6) リストからファイル名の列をクリックして選択するか、" ファイル名　列番号 " を入力して指定します。

" 読み込み開始行 " 欄に読み込ませたい最初の行番号を入力すると、その列のデータが表示されます。

(7) "OK" ボタンをクリックすると、読み込み開始行から　その列をファイル名として読み込みます。" キャンセル " ボタンをクリックすると、ファイルリストの指定を取り止めます。

3.9.5 設定ファイルを開くときにファイル名を指定する

設定ファイルを開くときに、設定ファイルのファイル名指定の代わりに Excel 等の表計算アプリケーションの出力するカンマ区切りのテキストファイルをファイル名として指定できます。

設定ファイルと同じ名前のファイルで、拡張子が ".csv" のファイルが同じフォルダに有る場合には、設定ファイルのファイル名指定を使用せず　そのファイルからファイル名を読み込みます。

例えば、設定ファイルが "Sample.bt3" という名前であるときに、"Sample.csv" という名前のファイルを同じフォルダに置いておけば、"Sample.bt3" のファイル名指定の代わりに、"Sample.csv" からファイル名を読み込むようになります。

この機能は、3.9.4 での操作を設定ファイルを開くときに自動実行することと同様な機能になります。

3.9.6 .csv ファイルでファイル名を連番に指定する

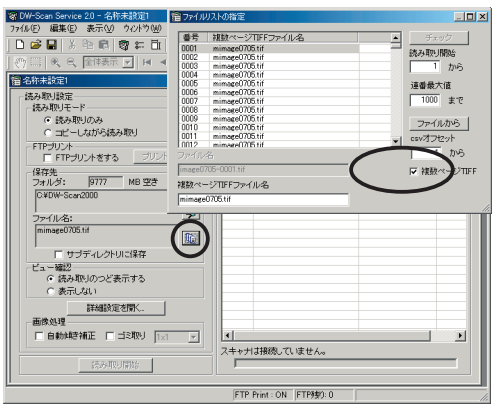
.csv ファイルにファイル名を指定する際に、未入力の行がある場合には自動的に以前のファイル名に連番を付けたファイル名を生成します。また、次の行に有効なファイル名が入力されている場合には、連番付けを中止します。
この様にして、ファイル名の指定を簡便に行うことができます。

例えば、1 枚目から 5 枚目までは 1 枚目のファイル名の連番でファイル名を指定し、6 枚目からは別のファイル名で連番を再開する場合は、以下のようになります。

.csv ファイルの内容	ファイル名指定の結果
Sample.tif (改行)	Sample.tif
(改行)	Sample-0002.tif
(改行)	Sample-0003.tif
(改行)	Sample-0004.tif
(改行)	Sample-0005.tif
NewSample.tif	NewSample.tif
(改行)	NewSample-0002.tif
(改行)	NewSample-0003.tif

3.9.7 複数ページ TIFF 形式で保存

TIFF ファイルを保存する際に、一つのファイルに複数の
ページをもつ形式で保存することができます。

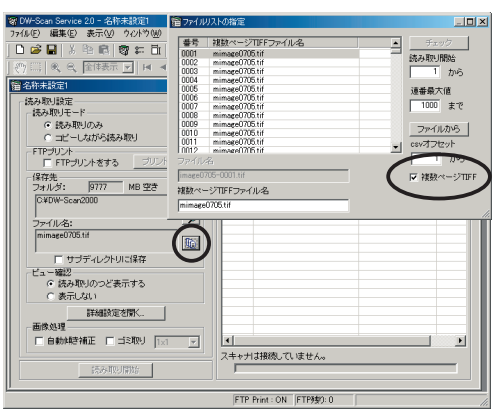


(1) 設定ウィンドウの、ファイル名入力欄
の右にあるボタン をクリックし
て、複数ページ TIFF をチェックします。

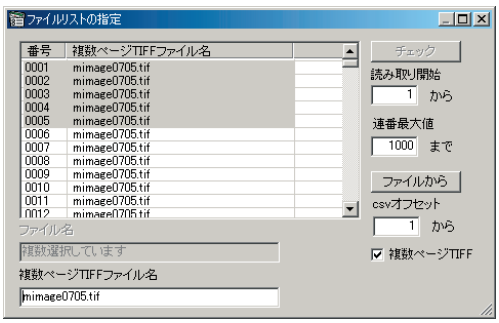
(2) 読み取った TIFF は順番に指定された
ファイルにページとして追加されてい
きます。

3.9.8 複数ページ TIFF 形式のファイル名

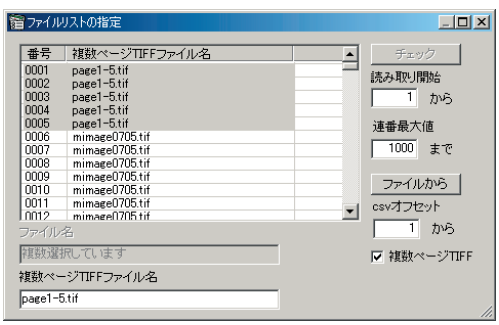
複数のページをもつ TIFF 形式で保存する場合、読み取り番号に対
してファイル名を変えることができます。ここでは例として、読み
取り番号の 1 ～ 5 を "page1-5.tif" の TIFF ファイルにページとして
保存し、読み取り番号の 6 ～ 10 を "page6-10.tif" の TIFF ファイル
に指定する方法を説明します。



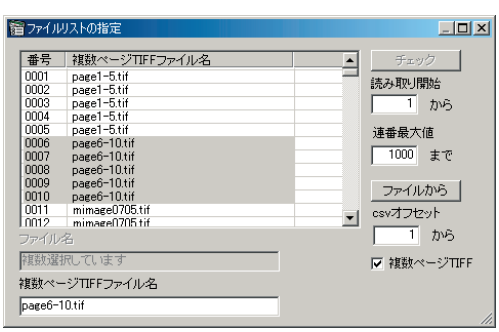
(1) 設定ウィンドウの、ファイル名入力欄
の右にあるボタン をクリックし
てファイル名リストを表示させ、複数
ページ TIFF をチェックします。



(2) マウスで読み取り番号 1 ～ 5 までを選択します。



(3) 下の複数ページ TIFF ファイル名欄に、"page1-5.tif"　と入力して Enter キーを押します。



(4) 同様にして読み取り番号の 6 ～ 10 を選択し直して、ファイル名を　"page6-10.tif"　と入力します。

(5) このようにファイル名を指定した後、読み取りを開始します。
1 枚目から 5 枚目までは、"page1-5.tif"　のファイルにページ 1 ～ 5 として保存され、6 枚目から 10 枚目までは、"page6-10.tif"　のファイルにページ 1 ～ 5 として保存されるようになります。

注意
既存の複数ページ TIFF に追加していく場合、最大のページ数は 65535 ページまでです。

3.9.9 ファイル名に使用できない文字

保存する TIFF ファイルに、以下の文字は使用できません。

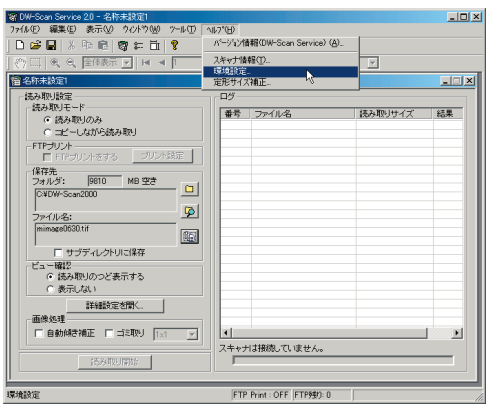
¥ \ / : , ; * ? " < > | ~

3.10 ヘルプメニュー

ヘルプメニューの内容と操作方法について記述します。

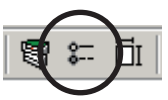
3.10.1 環境設定（自動読み取り中止）

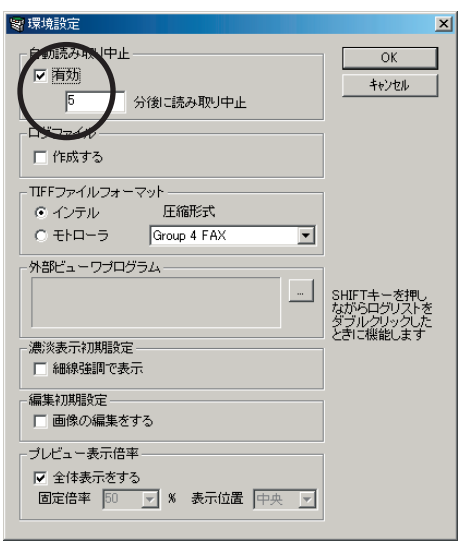
通常は読み取り開始ボタンを押して読み取り中になると DocuWide2050/2051 を占有したままになってしまいますが、原稿の読み取りを行わないまま一定時間経過すると自動的に読み取り中止させることが出来ます。



(1)　ヘルプメニューの " 環境設定 " を選択します。

Note: ツールバーの環境設定ボタンでも同様の操作が出来ます。





(2)　環境設定のダイアログが表示されます。

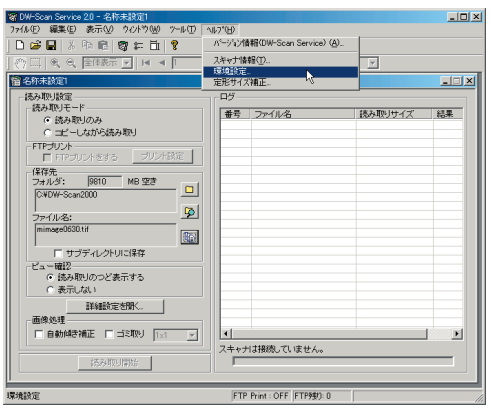
(3)　自動読み取り中止を有効にするには、" 有効 " をチェックします。

(4)　最後の原稿の読み取りを行ってから自動的に読み取り中止になるまでの時間を設定します。有効な設定範囲は 1 ～ 300（分）です。

Note：自動読み取り中止が働いたときは、" 読み取り中止 " ボタンを押した場合と同じになります。

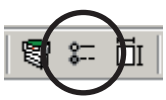
3.10.2 環境設定（ログファイルの作成）

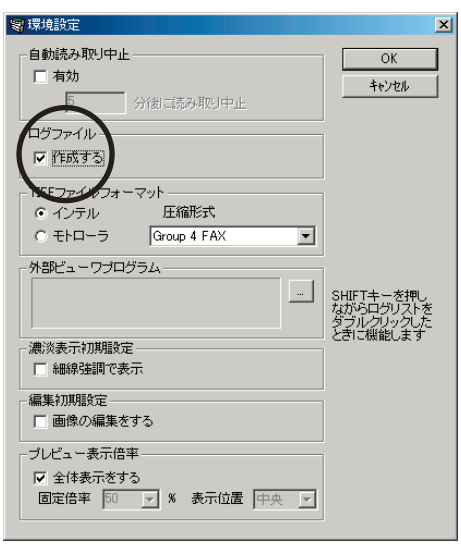
読み取りが進んでいくと設定ウィンドウに読み取り結果が表示されますが、これと同じ内容のテキストファイルをログファイルとして保存させることが出来ます。
ログファイルの保存先は設定ウィンドウで指定したフォルダになります。



(1)　ヘルプメニューの " 環境設定 " を選択します。

Note: ツールバーの環境設定ボタンでも同様の操作が出来ます。





(2)　環境設定のダイアログが表示されます。

(3)　ログファイル作成を有効にするには、" ログファイルを作成する " をチェックします。

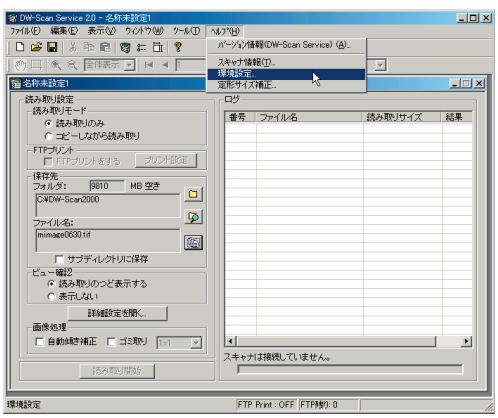
Note: 詳細については 4.2.1 ジョブログを参照してください。

3.10.3 環境設定（TIFF ファイルフォーマット）

DW-Scan Service で保存する TIFF フォーマットを他のアプリケーションで利用する際に都合がいいように指定することが出来ます。
インテル形式は、TIFF の 16 ビット以上のデータの並び方が下位から上位、また　モトローラ形式では、上位から下位の並びになっています。

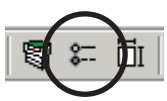
Note: 通常はインテル形式で問題有りません、ご使用の他アプリケーションが対応していない場合に変更を行って下さい。

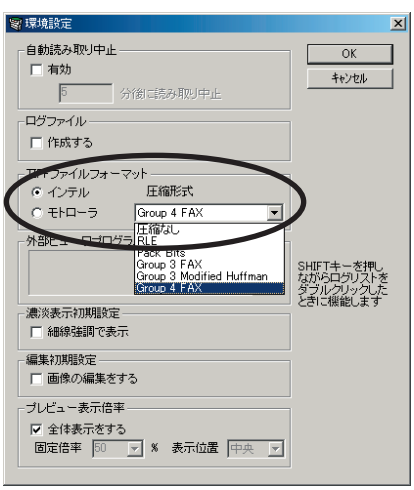
圧縮形式については、6 種類をサポートしています。図面などの読み取りを行う時は、保存するファイルのサイズを小さくするために Group4 FAX 形式を使用されることを推奨します。



(1)　ヘルプメニューの " 環境設定 " を選択します。

Note: ツールバーの環境設定ボタンでも同様の操作が出来ます。





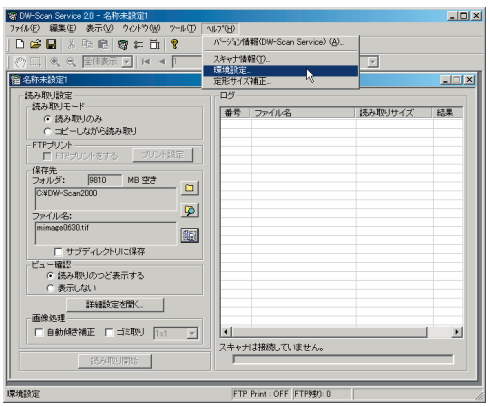
(2)　環境設定のダイアログが表示されます。

(3)　インテルまたはモトローラの形式を指定します。
(4)　圧縮形式を指定します。

Note:DW-Scan Service はいずれの形式も読み込むことが出来ます。

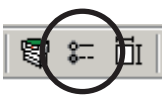
3.10.4 環境設定（外部ビューワ）

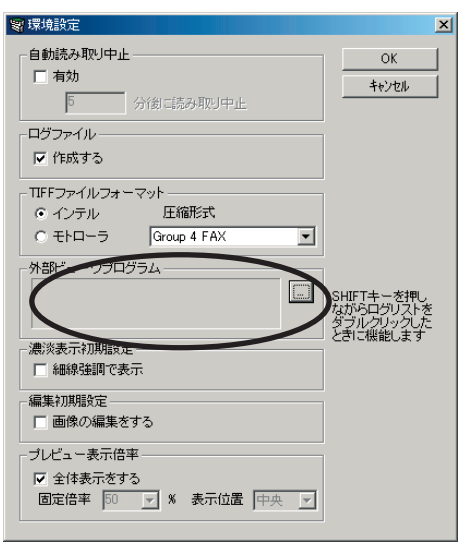
読み取りが済んだ画像を見るときに（ログリストをシフトキーを押しながらダブルクリック）、DW-Scan Service で表示させずに、他のアプリケーションで表示させることが出来ます。



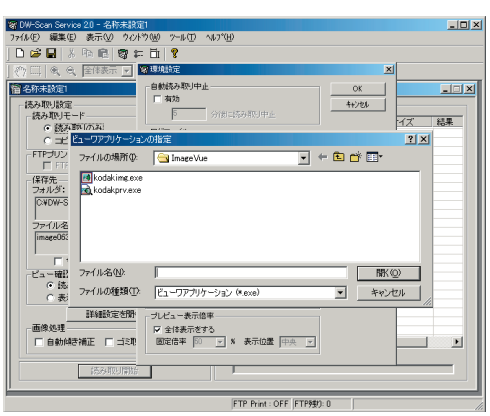
(1)　ヘルプメニューの " 環境設定 " を選択します。

Note: ツールバーの環境設定ボタンでも同様の操作が出来ます。





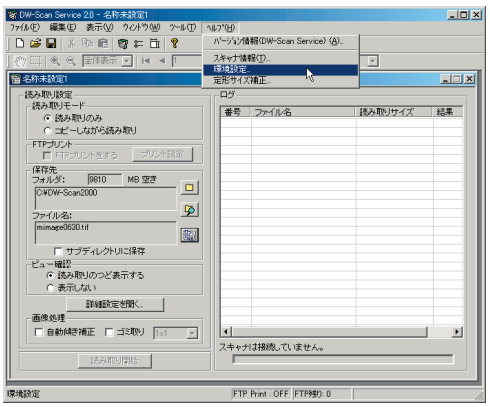
(2)　環境設定のダイアログが表示されます。



(3)　ビューワ指定ボタンをクリックして外部ビューワを指定します。

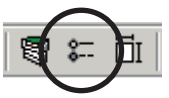
3.10.5 環境設定（濃淡表示初期設定）

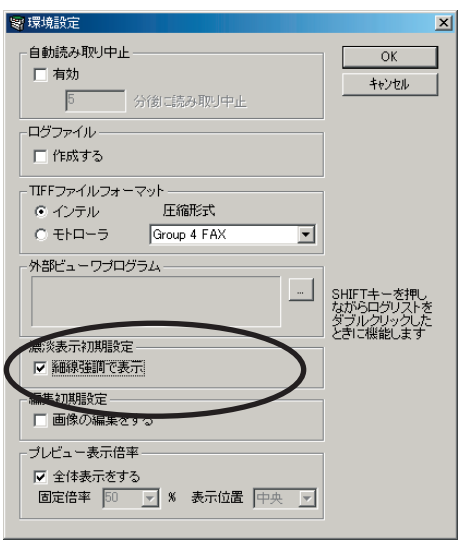
画像を表示する際に表示を細線強調で行うかどうかを指定します。



(1)　ヘルプメニューの " 環境設定 " を選択します。

Note: ツールバーの環境設定ボタンでも同様の操作が出来ます。





(2)　環境設定のダイアログが表示されます。

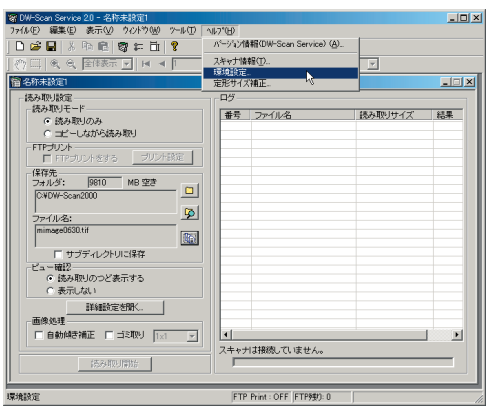
(3)　細線強調で表示を行うには、
" 細線強調 "　をチェックします。

Note: 読み取りプレビューや TIFF イメージを開いて表示するときの初期設定になります。

表示メニューの濃淡表示を選択することで、個別に切り変えることができます。

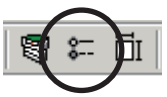
3.10.6 環境設定（編集初期設定）

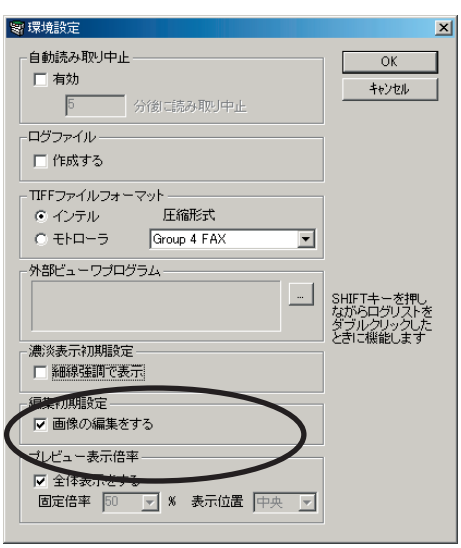
TIFF 画像を編集可能にするかどうかを設定します。
自動傾き補正・ゴミ取りなどの画像の編集を行うことができるように
なります。



(1)　ヘルプメニューの " 環境設定 " を選択します。

Note: ツールバーの環境設定ボタンでも同様の操作が出来ます。





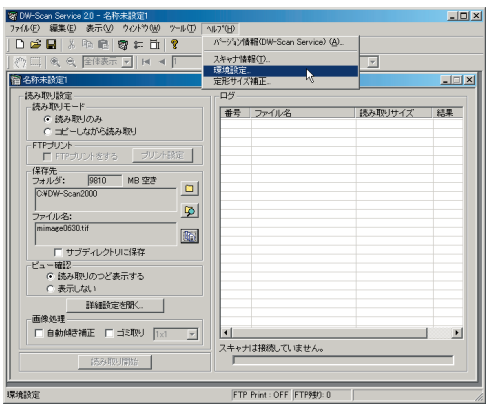
(2)　環境設定のダイアログが表示されます。

(3)　画像の編集を行うには、" 画像の編集を行う "　をチェックします。

Note: 現在開いている TIFF 画像には適用されません。編集を行うには一度 TIFF 画像を閉じて下さい。

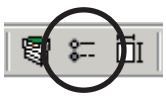
3.10.7 環境設定（プレビュー表示倍率）

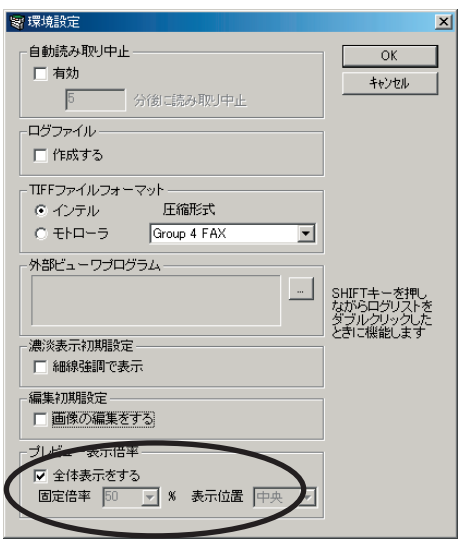
プレビュー時の表示方法を指定します。必ず全体表示にしたり、特定の倍率で読み取った原稿の場所を表示するようにできます。



(1)　ヘルプメニューの " 環境設定 " を選択します。

Note: ツールバーの環境設定ボタンでも同様の操作が出来ます。





(2)　環境設定のダイアログが表示されます。

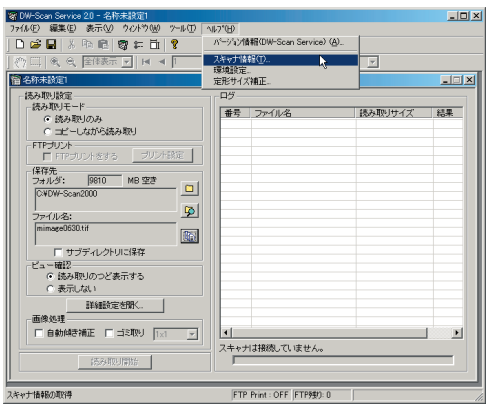
(3)　プレビュー開始時に必ず全体表示にする場合は、" 全体表示をする "　をチェックします。

プレビューを特定の表示倍率で行う場合は、" 全体表示をする "　のチェックを外して、固定倍率を指定します。

また、読み取った原稿の特定の場所を表示させるには、表示位置から場所を選択します。
表示位置は中央／左上／右上／左下／右下の内から選びます。

3.10.8 スキャナ情報

DocuWide2050/2051 に関する情報の表示とセルフテストを実行できます。

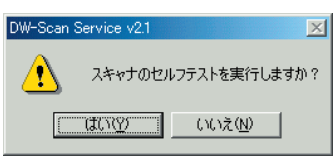


(1) ヘルプメニューから " スキャナ情報 " を選択します。

Note: ツールバーのスキャナ情報ボタンでも同様の操作が出来ます。

(2) 接続されているスキャナに関する情報がダイアログに表示されます。

Note:DocuWide2051 を使用していても " プロダクト ID:" には DocuWide2050S と表示されます。



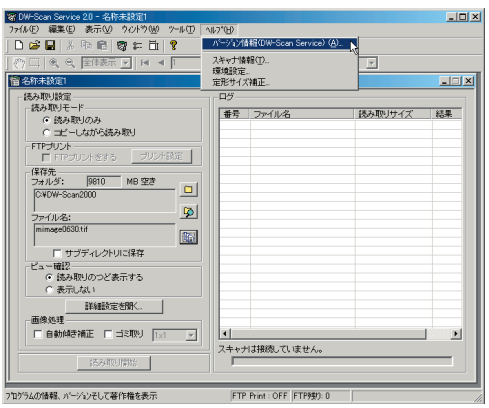
(3) " セルフテスト " ボタンを押すと確認のダイアログが表示されて " はい " をクリックするとセルフテストが始まります。

(4) セルフテストが終了すると、結果をダイアログに表示します。

Note: セルフテストは数秒で終了します。

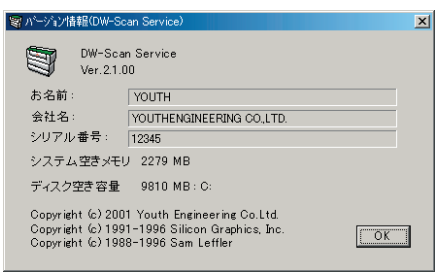
3.10.9 バージョン情報

DW-Scan Service のバージョンおよびハードディスクの空き容量、メモリの空き容量などを表示します。



(1)　ヘルプメニューから " バージョン情報 " を選択します。

Note: ツールバーのヘルプボタンでも同様の操作が出来ます。



(2)　バージョン情報のダイアログが表示されます。
インストールするときに入力した情報も併せて表示されます。

Note：システム空きメモリは実装されているメモリの中で現在使用可能な容量を示しています。（仮想メモリを含んだ空きメモリではありません）この空きメモリが以下に示す容量であれば仮想メモリを使用することなく効率良く読み取りを行うことができます。

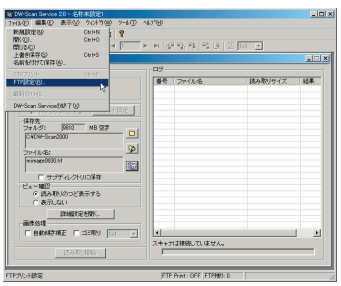
A0	60MB
A1	30MB
A2	15MB
A3	7.5MB
A4	3.25MB

3.11 FTP プリント

FTP プリントの内容と操作方法について記述します。

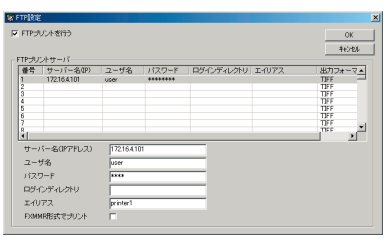
3.11.1 FTP の設定

FTP プリントを使用するには、お使いになっている PC のネットワークに関する情報が必要になります。設定に必要な情報がわからないときは、ネットワーク管理者に問い合わせてください。



(1) ファイルメニューの "FTP 設定 " を選択します。

(2) FTP 設定のダイアログが表示されます。



Note: リスト上で右クリックすると、項目のコピー・貼り付け・削除が行えます。

Note：FTP プリント機能は複数の FTP サーバーが設定可能ですが、同時に複数の FTP サーバーへプリントを行うことはできません。

(3) サーバー名：
FTP サーバーの名前または IP アドレスを入力します。
DocuWide2050/2051 へ出力するときは、DocuWide2050/2051 に割り当てた IP アドレスを入力してください。

(4) ユーザ名 / パスワード：
FTP サーバーに登録されているユーザ名 / パスワードを入力します。
DocuWide2050/2051 のデフォルトは、ftpusr/ftpusr です。

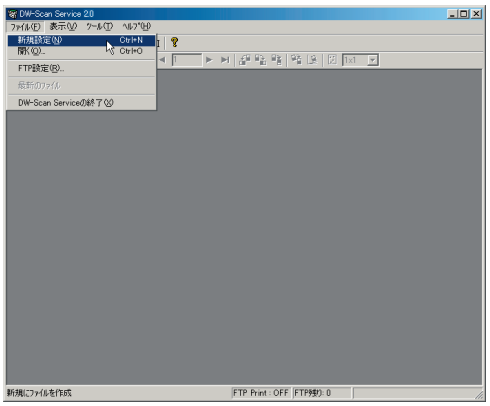
(5) ログインディレクトリ：
FTP サーバー上のログインディレクトリを指定するときに使用します。
指定しないときは何も入力しないで下さい。
DocuWide2050/2051 へ出力するときは、plt00t ～ plt99t のいずれかを指定してください

(6) エイリアス：
指定した FTP サーバーを覚えやすい名称にするために指定します。

(7) FXMMR 形式：
指定した FTP サーバーが富士ゼロックスのプロッタであり、TIFF フォーマットをサポートしていない場合に指定します。
DocuWide2050/2051 へ出力するときは、指定しないで下さい

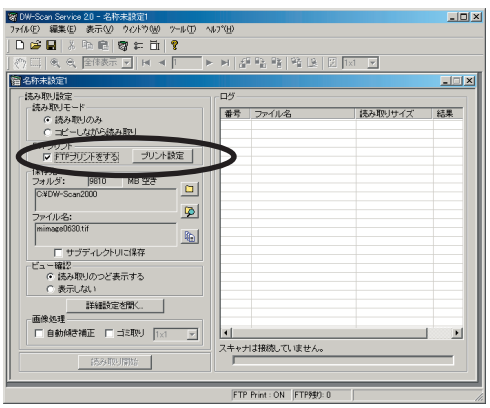
Note: プロッタのサポートフォーマットと FTP 転送方法の関係を確認して下さい。

3.11.2 読み取りながら FTP プリントを実行する



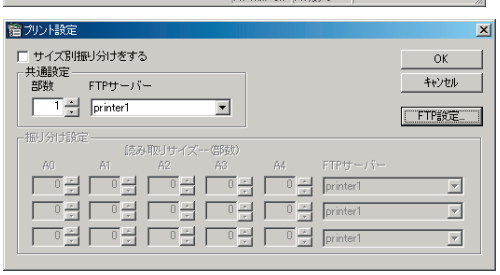
(1) DW-Scan Service を起動して、ファイルメニューから新規設定を選択します。

Note: ツールバーの新規設定ボタンでも同様の操作が出来ます。

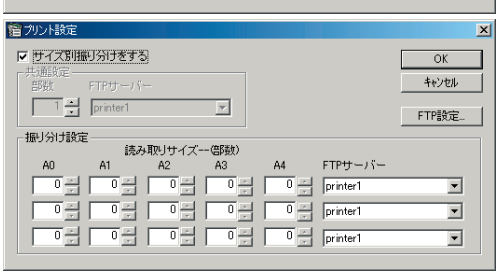


(2) 読み取りモード、保存するファイル名やフォルダを必要に応じて指定します。

(3) "FTP プリントをする " をチェックして、" プリント設定 " ボタンをクリックします。



(4) FTP 設定で指定したどの FTP サーバーに対してプリントを行うかを指定します。
同時に部数を指定します。

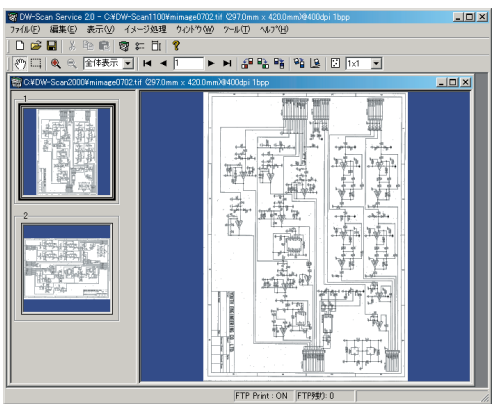


(5) 読み取りサイズによって、FTP サーバーを切り替えるときは、サイズ別振り分けをチェックして、サイズ毎にどの FTP サーバーに対してプリントを行うかを指定します。

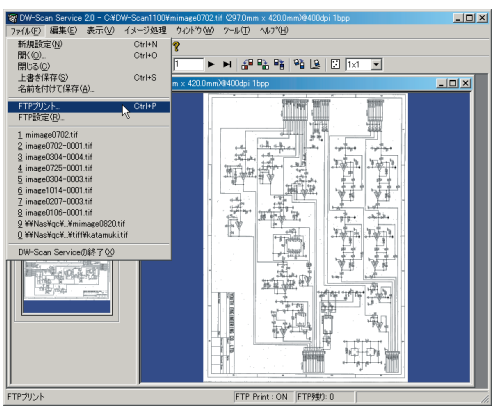
(6) 読み取り開始ボタンをクリックしてから、DocuWide2050/2051 に原稿を読み込ませます。

(7) 読み取りが終了した TIFF が、逐次 FTP プリントされていきます。

3.11.3 保存した画像ファイルに FTP プリントを実行する

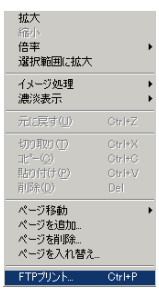


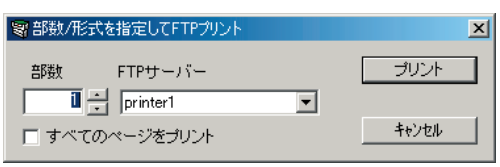
(1)　保存した TIFF ファイルを開きます。



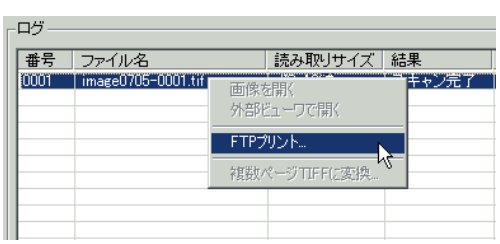
(2)　ファイルメニューから　FTP プリントを選択します。

Note: 画像を表示しているウィンドウ上で右クリックすることでも、FTP プリントを実行できます。





(3)　部数 / 形式 / サーバーを指定するダイアログが表示されます。
プリントボタンをクリックすると FTP プリントが行われます。



Note: ログリストに読み取りが完了している画像ファイルがあるときは、項目を右クリックで選択することで、FTP プリントを直接実行することができます。

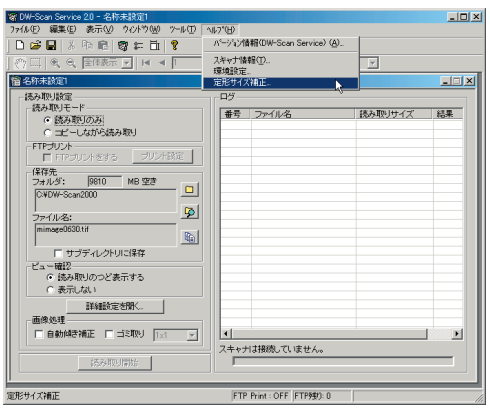
3.12 定形サイズ補正

定形サイズ補正の内容と操作方法について記述します。

3.12.1 定形サイズ補正が必要なとき

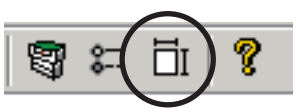
DW-Scan ServiceI で作成される定形サイズと違うサイズ（画素数）でイメージファイルを保存したい場合に指定します。

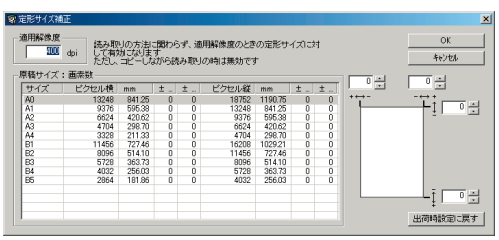
3.12.2 手順



(1)　ヘルプメニューから " 定形サイズ補正 " を選択します。

Note: ツールバーの定形サイズ補正ボタンでも同様の操作が出来ます。





(2)　定形サイズ補正ダイアログが表示されます。

適用解像度：

この欄で指定した解像度で拡大縮小率が 100% のときだけ補正が有効になります。
（詳細設定の解像度指定と一致）

原稿サイズ 画素数リスト：

用紙サイズ別に補正した指定を一覧表示します。

画素数指定欄：

リストで選択した用紙サイズに対する上下端左右端を指定します。
画素数で指定を行い、-100 から +100 まで指定できます。

出荷時設定に戻す：

インストール直後の状態に戻します。

3.12.3 定形サイズと画素数（出荷時の設定）

DW-Scan Service で作成される定形サイズ（出荷時の設定）は以下のとおりです。いずれも解像度が 400dpi のときの画素数で示しています。

定形サイズ	画素数（横）	画素数（縦）
A0	13248（841.25mm）	18752（1190.75mm）
A1	9376（595.38mm）	13248（841.25mm）
A2	6624（420.62mm）	9376（595.38mm）
A3	4704（298.70mm）	6624（420.62mm）
A4	3328（211.33mm）	4704（298.70mm）
B1	11488（729.48mm）	16224（1030.22mm）
B2	8128（516.13mm）	11488（729.48mm）
B3	5760（364.73mm）	8128（516.13mm）
B4	4064（258.06mm）	5760（364.73mm）
B5	2880（182.88mm）	4064（258.06mm）

注意

定形サイズ補正は以下の場合に機能しません

・読み取りながらコピー

・拡大縮小率が 100% 以外のとき

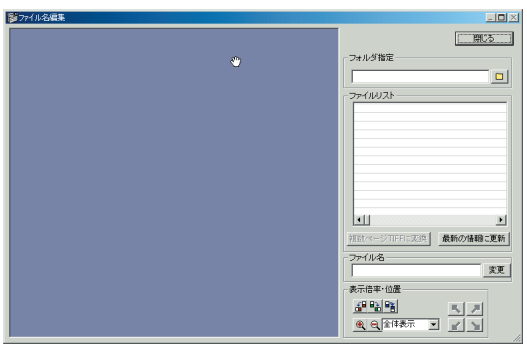
3.13 ファイル名編集ツール

読み取り保存を行った後、TIFF 画像を確認しながら TIFF のファイル名を編集する事が出来ます。

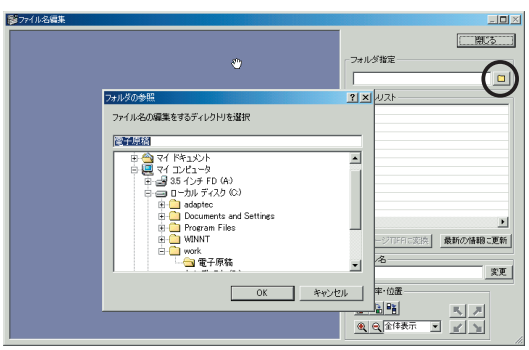
3.13.1 ファイル名編集ツールを開く

(1)　ツールメニューからファイル名編集ツールを選択します。

Note: 画像ファイル表示している場合は、画像ファイルを閉じて下さい。表示している画像は、ファイル名編集ツールで見ることが出来ません。

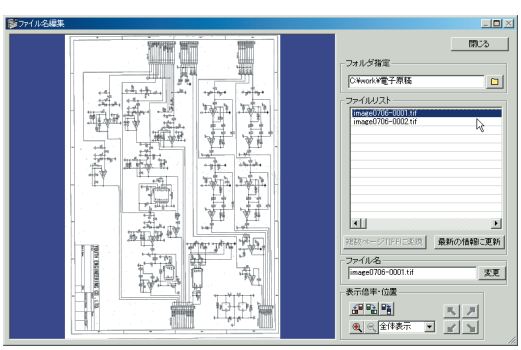


(2)　ファイル名編集ウィンドウが開きます。

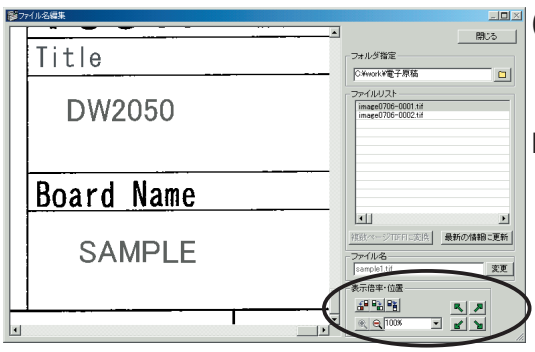


(3)　フォルダ指定ボタンをクリックしてファイル名編集の対象となるフォルダを指定します。

Note: フォルダ指定欄にフォルダの場所を直接入力して、Enter キーを押下することでも指定できます。

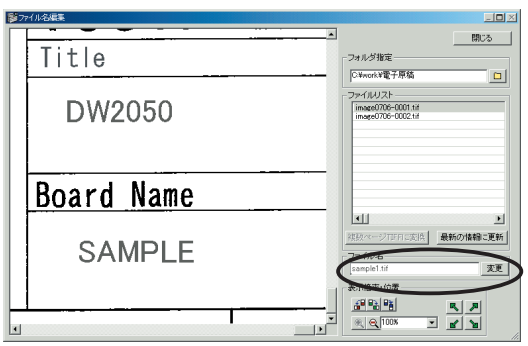


(4)　指定したフォルダ内の TIFF ファイルをファイルリストに表示して、1 枚目の TIFF 画像が表示されます。



(5)　表示倍率・位置を指定して TIFF 画像の表題欄を表示させることができます。

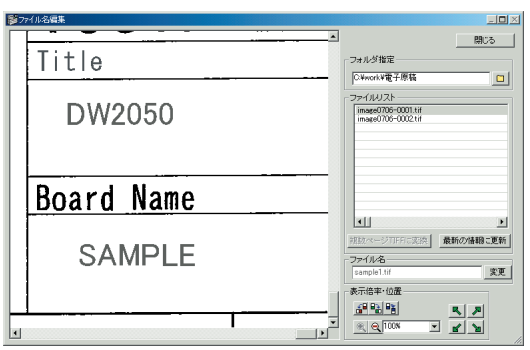
Note: 指定した表示倍率・位置は次の TIFF 画像を表示するときにも適用されます。



(6)　ファイル名欄に変更したい新しいファイル名を入力して、変更ボタンをクリックします。

ファイル名の変更が行われて、次の TIFF 画像が開いて表示されます。

Note: ファイル名を入力後、Enter キーを押下することでもファイル名の変更が行えます。



(7)　同様にくり返してファイル名を変更していきます。
最後の TIFF ファイルのファイル名を変更した後は、そこでストップします。

Note: ファイル名編集ツール起動中に、指定フォルダの内容を変更した場合 (ファイルの追加や削除等) は必ず " 最新の情報に更新 " ボタンをクリックしてファイルリストの表示を更新して下さい。
更新せずに " 変更 " ボタンをクリックすると、保存できないことがあります。

第４章 エラーメッセージ

4.1 エラーメッセージ一覧
4.2 ログファイル

4.1 エラーメッセージ一覧

4.1.1 起動時･設定書類を開いたとき

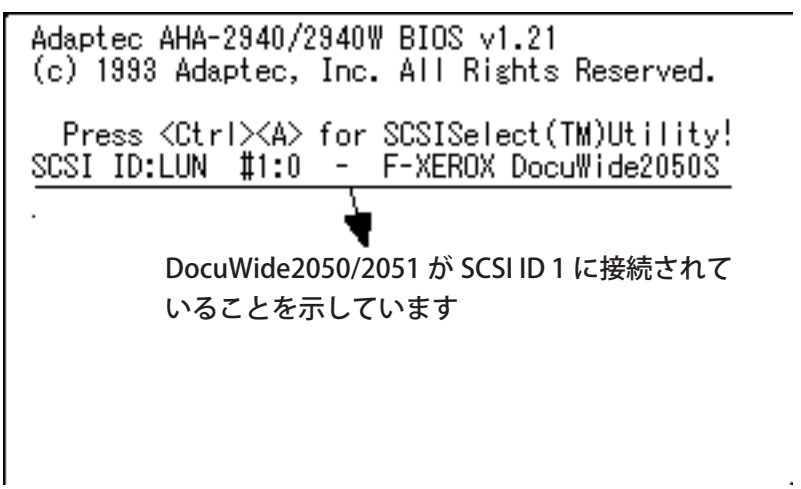
◆ SCSI ドライバーが正常にインストールできていません。インストールをやり直してください。

［対処］
DW-Scan Service を終了して、もう一度インストールをやり直してください。

◆スキャナとの接続が確認できません。
◆ SCSI カードが装着されていません。

［対処］
(1)DocuWide2050/2051 の電源が投入されているかどうか確認してください。
(2) DocuWide2050/2051 が立ち上げ起動中でないか確認し、コピー可能になるまで待ってください。
(3) SCSI ケーブルの接続が正しいかどうか確認してください。

コンピュータの起動時に、以下の画面が表示されないときは、SCSI ホストアダプタが正常にインストールできていません。SCSI ホストアダプタのインストールをやり直してください。



DocuWide2050/2051 が SCSI ID 1 に接続されていることを示しています

◆ ASPI マネージャがインストールされていません。
◆ ASPI マネージャが動作していません。
◆ ASPI マネージャの初期化に失敗しました。
◆インストールしている ASPI マネージャが不整合です。

［対処］
DW-Scan Service を終了して、もう一度インストールをやり直してください。

◆ FTP プリントが設定されています。FTP プリントを開始しますか。

［対処］
以前に FTP プリントの設定が行われています。FTP プリントを使用するのであれば、FTP サーバーが正しく稼動しているかどうか確認後、" はい "　のボタンをクリックして下さい。

FTP プリントを使用しないのであれば、" いいえ "　のボタンをクリックします。再び FTP プリントを使用する場合は、ファイルメニューの FTP プリントの設定を実行すれば、開始することができます。

◆ FTP プリントエラーが発生しました　設定を確認して下さい。
サーバー：XXXX　エイリアス：XXXX
エラー内容：
XXXXX

［対処］
以下の項目を確認して下さい。また、お使いになっているネットワークに関する情報がわからない場合は、ネットワーク管理者に問い合わせて下さい。
・FTP サーバーが正しく稼動しているか。
・FTP プリントの設定が正しいか。
・お使いの PC のネットワーク設定が正しいか。

4.1.2 読み取り

◆保存先の空き容量が少ないため読み取り開始できません。

［対処］
読み取り開始するためには、保存先の空き容量が 512kB 以上必要です。
不要なファイルを削除するか、保存先のフォルダを変更してください。

◆スキャナーの読み取り部に原稿がつまっているか、カバーが開いています。読み取りを続けますか。

［対処］
DocuWide2050/2051 の読み取り部の原稿を取り除いてから、" はい " のボタンを押すと読み取りを再開します。" いいえ " をクリックすると読み取りを終了します。

◆読み取るためのメモリが足りません。次の原稿を読み込みますか。

［対処］
メモリの空き容量が不足しています。不要なアプリケーションを終了させてください。" はい " のボタンを押すとそのファイルの保存は行わず、次の読み取りから再開します。" いいえ " をクリックすると読み取りを終了します。

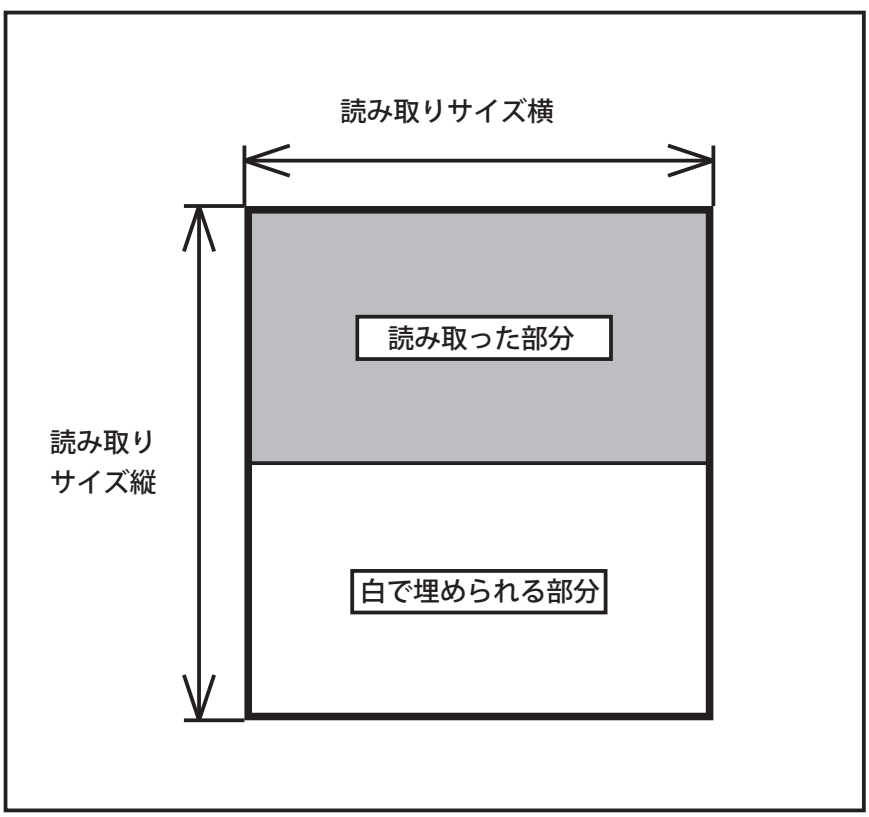
◆保存先の空き容量が少ないため保存できません。読み取りを続けますか。

［対処］
保存先のディスクの空き容量が不足しています。不要なファイルを削除してください。" はい " のボタンを押すとそのファイルの保存は行わず、次の読み取りから再開します。
" いいえ " をクリックすると読み取りを終了します。ログには " 保存エラー " と表示されます。

◆ "XXX" をビュー確認するためのメモリが足りません。
［対処］
メモリの空き容量が不足しています。不要なアプリケーションがあれば終了させてください。その読み取りのビュー確認無しで読み取りを続行します。

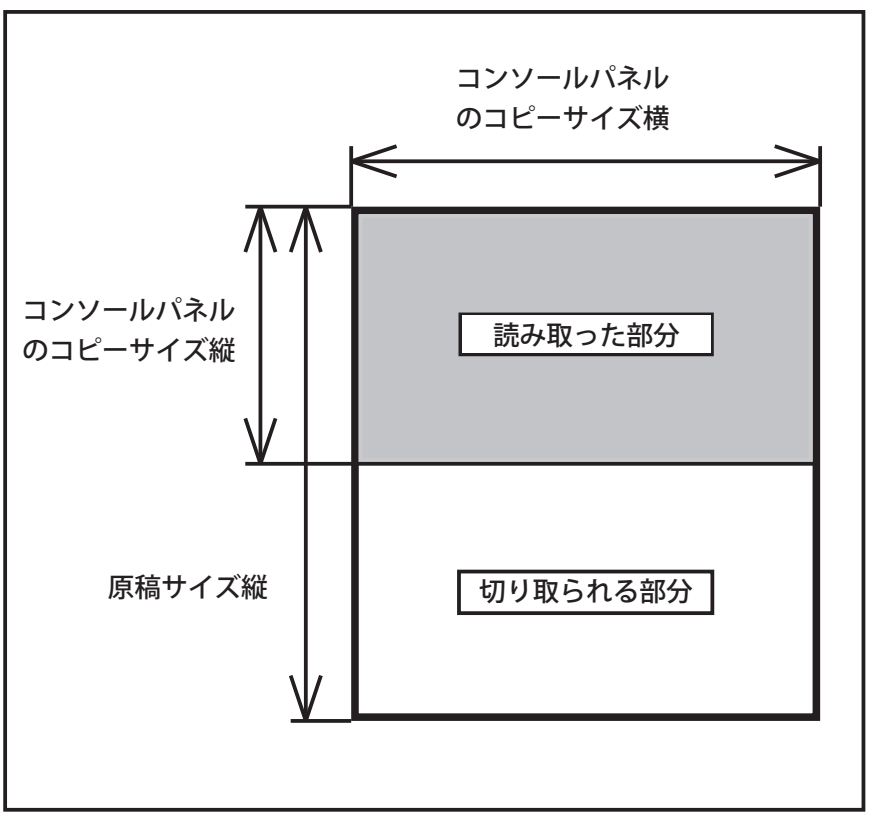
◆指定されたサイズより短い原稿を読み込みました。この原稿を保存して作業を続けますか。

［対処］
特定サイズ指定のとき指定したサイズより縦の長さが短い原稿を読み取りました。" はい " のボタンを押すとそのファイルを保存しますが、読み込んだ長さより後は白で埋められた画像になります。ログには " 読み取りサイズエラー " と表示されます。
" いいえ " をクリックすると読み取りを終了します。ログには " 保存キャンセル " と表示されます。



◆指定されたサイズより長い原稿を読み込みました。この原稿を保存して作業を続けますか。

［対処］
コピーしながら読み取りのとき、コンソールパネルで指定したサイズより縦の長さが長い原稿を読み取りました。" はい " のボタンを押すとそのファイルを保存しますが、コンソールパネルで指定した長さより後は切り取られた画像になります。ログには " 読み取りサイズエラー " と表示されます。
" いいえ " をクリックすると読み取りを終了します。ログには " 保存キャンセル " と表示されます。



4.1.3 その他

◆スキャナが使用中であるか、パネル操作後 30 秒経過してないため、スキャナーモードに出来ません。

［対処］
読み込み開始した時に DocuWide2050/2051 がコピー中であるか、他のコンピュータによって使用中になっています。
コピーの終了を待ってから再度読み取り開始するか、他のコンピュータの使用を終了させてください。
コンソールパネルの操作を行ってから 30 秒間はスキャナーモードに出来ません。30 秒経過してから読み取り開始してください。

◆パネル操作後 30 秒経過してないため、コピーモードに出来ません。30 秒経過後 OK ボタンをクリックしてください。

［対処］
コピーしながら読み取りの時に読み取り中止をしたとき、コンソールパネルの操作を行ってから 30 秒間はコピーモードに戻りません。30 秒経過してから OK ボタンをクリックしてください。

◆ハードウェア障害が発生しました。スキャナを起動し直す必要があります。読み取りを終了してください。

［対処］
(1) DW-Scan Service を終了させて、コンピュータの電源を切ってください。
(2) DocuWide2050/2051 を起動し直してください。
(3) コンピュータを起動し DW-Scan Service を起動してください。

◆編集に必要なディスクの空き容量が足りません。

［対処］
複数ページ TIFF の編集は、一時ファイルを作成するために Windows がインストールされているハードディスクの空き容量が必要になります。不要なファイルを削除して、ハードディスクの空き容量が、編集を行っている TIFF ファイルの 2 倍以上あるようにして下さい。

4.2 ログファイル

DW-Scan Service が作成するログファイルについて記述します。

4.2.1 ジョブログ

設定ウィンドウのログ表示と同様のものがテキストファイル形式で保存されます。読み取り終了または読み取り一時中止する度に設定ウィンドウで指定した保存先フォルダに " 設定ファイル名 +.log" の名前のファイルを作成します。

Note:　設定ウィンドウを閉じてしまったり、DW-Scan Service を終了させてしまった場合でもこのログをメモ帳などで開けば先ほどの作業結果や保存された TIFF ファイルの名前などを確認することが出来ます。

Note:　インストール直後はログファイルを作成しない指定になっています。指定の方法については　3.10.2 環境設定（ログファイルの作成）を参照してください。

4.2.2 作業履歴ログ

原稿を読み取りする度にその作業履歴が保存されます。通常は内容を確認する必要はありませんが、後述するエラーログと併せてトラブル発生時の解決や発生原因などを調べるために使用します。

作業履歴ログは、DW-Scan Service がインストールされているフォルダの中の "logdir" というフォルダに "joblog1.log" と "joblog.2log" の名前で保存されています。

4.2.3 エラーログ

読み取り中に発生したエラーの履歴が保存されます。通常は内容を確認する必要はありませんが、前述した作業履歴ログと併せてトラブル発生時の解決や発生原因などを調べるために使用します。

エラーログは、DW-Scan Service がインストールされているフォルダの中の "logdir" というフォルダに "errorlog1.log" と "errorlog2.log" の名前で保存されています。

Note:　エラーが発生しなければエラーログは作成されません。

4.2.4 FTP ログ

FTP プリントを行った履歴が保存されます。通常は内容を確認する必要はありません。

FTP ログは、DW-Scan Service がインストールされているフォルダの中の "logdir" というフォルダに "ftplog1.log" と "ftplog2.log" の名前で保存されています。

第 5 章 注意／制限事項

5.1 注意 / 制限事項

5.1 注意 / 制限事項

5.1.1 フォルダ・ファイル名の長さ

DW-Scan Service で使用できるファイル名の長さは 64 文字以内です。

Windows では、ファイル名の長さが 256 文字まで使用可能ですが、そのファイルの置かれるフォルダによって、使用可能な長さが変わってしまいます。

例えば、"C:\sample\test"　というフォルダの中では指定できるファイル名の長さは 256-14（フォルダ名の長さ）=242 になってしまいます。

ここに 242 文字のファイル名を持つファイルを置いてしまうと、11 文字 "sample\test" より長い名前のフォルダにはそのファイルを移動できなくなってしまいます。当然 "C:\sample\test"　というフォルダは、242 文字のファイルが入っている限り　他の階層下のサブフォルダにも移動できません。

DW-Scan Service では、このことを考慮してファイル名の長さは 64 文字以内に制限しています。

特に、運用される時に幾つものフォルダに階層化してファイルを保存していくときは、フォルダ名やファイル名の長さをなるべく短いもので作成することをお薦めします。

5.1.2 表示できない画像ファイル

DW-Scan Service で、開くことが可能な画像ファイルは TIFF イメージファイルです。

白黒以外の TIFF イメージファイル、拡張子が "tiff" の TIFF イメージファイルは開くことが出来ません。

5.1.3 ASPI マネージャ

DW-Scan Service をインストールする場合には ASPI マネージャが必要になります。
DW-Scan Service のインストーラによって、以下のバージョンの ASPI マネージャがインストールされます。

ASPI32.SYS　　(version 4.71.2)
WNASPI32.DLL　　(version 4.71.2)

従って、他のアプリケーションによって ASPI マネージャがインストールされているときには、それらのアプリケーションが、DW-Scan Service インストーラによって置き換えられた ASPI マネージャに対応していないために、動作できなくなるような問題が発生することが考えられます。

このような問題が発生したときは、動作できなくなったアプリケーションを再度インストールして ASPI マネージャをそのアプリケーションに対応したものに戻す必要があります。

5.1.4 自動傾き補正

自動傾き補正は、端から上下左右 50mm の範囲に枠線のある原稿が対象です。枠線のない図面や、写真画像等の原稿は、手動で行って下さい。

自動傾き補正可能な範囲は、最少 0.063 度、最大 4.3 度です。
-0.063 ～ +0.063 度以下の時、-4.30 ～ +4.30 度以上の時は
手動で行って下さい。

5.1.5 画像の表示と編集

画像の編集に必要な PC の空きメモリは、およそ以下の とおりです。
白黒 2 値 400dpi のとき

A0	60MB
A1	30MB
A2	15MB
A3	7.5MB
A4	3.75MB

編集する TIFF ファイル サイズの 2 倍程度、空きメモリがあればビューを行う ことができます。

右へ 90 度 / 左へ 90 度回転は、回転後の横画素が 65500 画素以内のものに限られます。これは 400dpi 換算で横が 4159mm(3.5A0) になります。

※他のアプリケーションで保存された TIFF ファイルの表示及び編集は、出来ない場合があります。

5.1.6 枠消し機能について

枠消し機能を使用する場合は、原稿をタテ送りでスキャンしてください。
横送りで原稿を挿入すると、用紙長さを正しく認識できないため用紙の後端のワク消しが行われません。

5.1.7 シンクロ／任意長モードでのスキャンについて

シンクロ／任意長でスキャンする場合の、回転／自動傾き補正／ゴミ取りについては、下記制限を越えると指定をしても動作しません。

・回転後の横画素数が 65500 画素（400dpi 換算で 4159 mm）以上のファイル。

5.1.8 参照プリントについて

コピーモードとスキャンモードのヘッダ機能の設定は独立しています。
コピーモードでヘッダ機能を設定しても、スキャンモード時には使用されません。
DW-Scan Service で参照プリントを行なう場合、DW-Scan Service で読み込み操作を行なって、スキャナをスキャンモードにしてからスキャナの操作パネルで以下の操作を行なってください。

(1)「スキャンデキマス」と表示されていることを確認する。
(2) コピー機能キーを押し、「3. サンショウプリント」を選択する。
(3) スル / シナイの表示で「スル」を選択する。
(4) コピー機能キーを押し、元のスキャンモード表示に戻す。
3 行目に「＊　キノウセッテイあり」と表示されていることを確認する。
(5) 原稿をスキャンする。

5.1.9 自動傾き補正・手動傾き補正の画質

自動傾き補正・手動傾き補正を行った場合、処理は移動元から移動先への座標変換を行いますが、デジタルデータであるため座標変換には誤差が発生する可能性があります。この誤差が要因となって画像に乱れが発生し、回転後の直線等が波打つような画質になることがあります。

5.1.10 プレビューにおける制限のまとめ

読み取り後のプレビュー中に画像を編集することができますが、その場合に必要な PC の空きメモリは、およそ以下のとおりです。

白黒 2 値 400dpi のとき

A0	60MB
A1	30MB
A2	15MB
A3	7.5MB
A4	3.75MB

読み取りの確認だけをするときは、保存した TIFF ファイルサイズの 2 倍程度、空きメモリがあればプレビューを行うことができます。

※一般的に緻密な原稿ほど TIFF ファイル のサイズは大きくなり、その分プレビューに必要な空きメ モリも大きくなります。

右へ 90 度 / 左へ 90 度回転は、回転後の横画素が 65500 画素以内のものに限られます。これは 400dpi 換算で横が 4159mm(3.5A0) になります。

P5.1.11　USB-SCSI 装置使用時の注意事項

USB-SCSI 装置を使用する際は以下の注意事項を守ってご使用ください。

・ケーブル長等、USB 規格の範囲で接続してください。

・USB-SCSI 装置付属の取扱説明書をよく読み接続を行ってください。
取扱説明書通りに接続を行っても、スキャナデバイスが認識できない場合は、別の USB ポートに差し替えて再度接続を試して下さい。

・以下の様な状態で DW-Scan Service を起動し読み取りを開始すると、スキャナデバイスを認識することができないため、Windows 自体が不正終了を起こし、保存をしていないアプリケーションのデータはすべて失われてしまいます。
必ず Windows を再起動してください。

・USB ケーブルが抜けてしまった場合。
DW-Scan Service を起動中、起動前に関わらず USB ケーブルの取り扱いに注意してください。

・タスクバーの「ハードウェアの安全な取り外し」を使用し、USB-SCSI 装置を取り外した場合。

・Windows の「システム スタンバイ」および「スリープ」を使用した場合。

5.1.12 連番最大値を超える読み取り

バージョン 2.1.00 より連番最大値を超えると、アプリケーションがスキャナを停止するように変更されていますが、「前の原稿を転送中」、「エラーダイアログ表示中」または、「プレビュー表示中」に連番最大値を超えてしまった場合は、スキャナを停止することができないため、連番最大値を超えて読み取られる事がありますが連番最大値を超えて読み取ったデータは保存されません。

読み取る原稿の枚数と連番最大値を確認の上、読み取りを開始してください。

5.1.13 CSV ファイルからファイル名を指定する際の注意事項

CSV ファイルのに「.tif」が含まれていると、列確認ダイアログが表示され、1 行目にあるファイル名の中に「.tif」が含まれている最初の列を選択するようになっています。

索引

アルファベット

A

ASPI マネージャ 3.4.13.77.85

C

CPU 3.4
csv オフセットの指定 53
csv ファイルでファイル名を連番に指定 56

F

FTP ステータス 29
FTP の設定 68
FTP プリント 27.68
FTP プリントエラー 77
FTP プリントを開始しますか 77
FTP ログ 82
FXMMR 形式 68

O

OS 3.5

S

SCSI カード 5
SCSI 接続ケーブル 3
SCSI ドライバー 76
SCSI ボード 3

T

TIFF イメージを開いて表示 63
TIFF ファイルフォーマット 61

U

USB 4
USB-SCSI 4
USB-SCSI 装置 24
USB-SCSI 装置 89
USB ケーブル 4

W

Windows 2000 5
Windows Vista 5
Windows XP 5

X

"XXX" をビュー確認するためのメモリ 79

かな

あ

アンインストールが出来ないとき 11.14.18

い

イメージタイプ 33
インストール 8.20
インテル 61

え

エイリアス 68
エラーメッセージ 76
エラーログ 82

か

回転 86.88
解像度 32
回転指定 32
外部ビューワ 62
拡大縮小指定 32
画像処理 28
画像の回転 46
画像の編集 86
画像ファイルのファイル名 52
画素数指定欄 71

き

起動 24
起動と終了 24
強制終了 25
鏡像 34

こ

コピーモードに出来ません 81
ゴミ取り 50
ゴミ取りの性能 51
コントラスト 34

さ

サーバー名 68
サイズ別振り分け 69
作業履歴ログ 82
参照プリント 87

し

システム空きメモリ 67
指定されたサイズより短い原稿 79
指定されたサイズより長い原稿 80
指定できる最大解像度 32
自動傾き補正 87
自動判定（シンクロ） 37
自動判定（定形サイズ） 35
自動ファイル名 52
自動読み取り中止 59
地肌除去 34
シャープネス 34
出荷時設定に戻す 71
手動傾き補正 87
手動傾き補正 - 角度を指定 49
手動傾き補正 - 水平線を指定 48
詳細設定 28
詳細設定ダイアログ 30
自動傾き補正 47
ジョブログ 82
書類ウィンドウ 26
シリアル番号 9.11.17
白黒反転 33

す

スキャナ 3.4
スキャナーの読み取り部に原稿がつまっている 78
スキャナーモードに出来ません 81
スキャナが使用中 81
スキャナ情報 66
スタートメニュー 24

せ

設定書類の保存 41
セルフテスト 66

ち

注意 / 制限事項 84

つ

ツールバー 26

て

定形サイズと画素数 72
定形サイズ補正 71
定形サイズ補正が必要なとき 71
ディスプレイ 3.4
適用解像度 71
電源投入 25

と

特定サイズ指定 39

は

バージョン情報 67
ハードウェア障害が発生 81
ハードディスク 3
パスワード 68
パネル操作後 30 秒 81

ひ

ビュー確認 27
表計算のファイルからファイル名を指定 55
表示できない画像ファイル 84

ふ

ファイル名に使用できない文字 58
ファイル名編集ツール 73
ファイル名を指定 53
フィルタタイプ 33
フォルダ・ファイル名の長さ 84
複数ページ TIFF 形式で保存 57
プレビュー表示 65

へ

ページの削除 44.45
ページの追加 43
ヘッダ 34

ほ

保証規定 9.11.17
保存先 27
保存先の空き容量が少ないため 78
保存した画像ファイルに FTP プリント 70
保存した画像ファイルを表示 42
保存した画像ファイルを編集 43

め

メインウィンドウ 26
メニューバー 26
メモリ 3.4

も

モトローラ 61

ゆ

ユーザ名 68

よ

読み取り開始 28
読み取り開始位置 31
読み取りサイズ 30
読み取りながら FTP プリント 69
読み取り濃度 34
読み取りプレビュー 63
読み取りモード 27
読み取るためのメモリが足りません 78

れ

連番最大値を指定 54

ろ

ログ 29
ログインディレクトリ 68
ログファイルの作成 60

わ

枠消し 34
枠消し機能 84.86